

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 I) General English I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	イントロダクションとプレテスト。初対面のあいさつ～お別れまでの会話が出来るようになる
2回目	自己紹介、友人の紹介、パーソナルインフォメーションに関する一般的な質問に対する受け答えが出来るようになる
3回目	ちょっとした世間話の会話が出来るようになる
4回目	好き・嫌い等の好みについての会話が出来るようになる
5回目	意見を尋ねる/意見を述べる。お誘いを受けた際の返答が出来るようになる。
6回目	家族について話したり尋ねることが出来るようになる
7回目	性格について話すことが出来るようになる
8回目	人を褒める&褒められた際の会話表現。(衣服など)着ているものに関して述べる事が出来るようになる
9回目	日々の習慣について話したり尋ねることが出来るようになる
10回目	追加質問について学び、実践できるようになる
11回目	順序について話したり尋ねることが出来るようになる
12回目	1回目～3回目までの授業の振り返り
13回目	4回目～7回目までの授業の振り返り
14回目	8回目～11回目までの授業の振り返り
15回目	英会話 I 統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本: Speak Now I

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 II) General English II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

日常生活の様々な場面で使える頻度の高いコミュニケーション英語を学ぶ。

【到達目標】

様々な場面で出てくるトピックに関して、自信を持って話せるようになる。

授業計画・内容

1回目	過去の出来事について話す、質問することが、出来るようになる
2回目	場所を尋ねる、説明することが出来るようになる
3回目	道案内をする、尋ねることが出来るようになる
4回目	料金について尋ねる、説明することが出来るようになる
5回目	頻度について質問する、答えることが出来るようになる
6回目	アイテムの特徴を説明することが出来るようになる
7回目	食べ物の量について話す、尋ねることが出来るようになる
8回目	必要性に関して話す、尋ねることが出来るようになる
9回目	食生活について話す、説明することが出来るようになる
10回目	食べ物について説明する、尋ねることが出来るようになる
11回目	過去の出来事について話す、質問する。ある出来事に対してのリアクションや返答の仕方を学び、実践することが出来るようになる
12回目	週末や未来の予定について話すことが出来るようになる
13回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
14回目	7回目～12回目までの授業の振り返り
15回目	英会話 II 統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

使用教本: Speak Now 1

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (実践英会話 I) Practical English I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。
 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。
 (英検3級合格レベル)

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	実践英会話 I 統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ (100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	基本技術を身につけることが重要です。 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。
【使用教科書・教材・参考書】	
・どンドン話すための瞬間英作文トレーニング	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (実践英会話Ⅱ) Practical English Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業形態	講義 演習	時間数 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。
 本授業では、これらをまとめた「スピーキング力」の基礎を実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーション(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応)ができるようになる。
 (英検3級合格レベル)

回数	授業計画・内容
1回目	「現在完了形」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
2回目	「比較級」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「関係代名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「関係代名詞」の応用的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「区と節」を理解して使いこなせるようになる。
6回目	「前置詞」を理解して使いこなせるようになる。
7回目	「接続詞(名詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
8回目	「接続詞(副詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
9回目	「品詞(名詞、冠詞)」を理解して使いこなせるようになる。
10回目	「品詞(形容詞、副詞)」を理解して使いこなせるようになる。
11回目	「疑問詞」を理解して使いこなせるようになる。
12回目	「疑問詞(How)」を理解して使いこなせるようになる。
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	実践英会話Ⅱ 統括
15回目	1年間の振り返り：1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・質問に対する1分スピーチのクオリティ(100%)
 ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価

受講生へのメッセージ

基本技術を身につけることが重要です。
 休まず、授業後には、習ったことを復習をして、毎回の授業に出席してください。

【使用教科書・教材・参考書】

・どンドン話すための瞬間英作文トレーニング

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅠ)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Career Program Ⅰ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科			2	曜日/時限		

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZIに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

ヒューマンスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。

【到達目標】

人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得

授業計画・内容

1回目	時間管理と挨拶・掃除&プロの職業人を 目指すにあたって
2回目	自己紹介:名前・出身地・趣味【はまっていること】
3回目	サポートアンケートと、「夢を叶えるには」について、理解を深める
4回目	コミュニケーションの基本を学び、説明ができる
5回目	接客基礎の重要な点を説明ができ、実践できる
6回目	敬語の重要性を学び、敬語の種類を理解する
7回目	「アイトーク」で、相手を理解しようとする意欲を養い、最初から簡単に諦めないことの大切さを理解する。
8回目	「サイレントトーク」で、頭で理解するのではなく、感覚的に分かろうとする気持ちを養う。
9回目	「伝達トレーニング」で、話し言葉だけでメッセージを正確に共有するための条件を理解して、実践できる。
10回目	「ジェスチャーコミュニケーション」で、メッセージの送り手と受け手に必要な気持ちを理解して、実践できる。
11回目	「相槌・繰り返し・傾聴の技法」で、どのように反応を示せば、聴く側の熱意を効果的に伝えることができるのかを学習します。
12回目	「要約の技法」で、自身が話を理解できているかの確認と、要約して返すことによって、問題を整理してあげることができることを学び、実践できる
13回目	「共感の技法」で、相手の気持ちを、その種類と程度まで正確に把握し、それを自然な言葉で表現して相手に返すことができるようになる
14回目	「協力ゲーム」で、チームで仕事するときの協力の重要性を知り、自分が完成してもチームのメンバー全員が完成しないと課題が達成できないことを体験して、共通の目標にむかっていかに行動するかを学び、理解できる
15回目	前期の振り返りと後期に向けて

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅡ) Career Program Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
		授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
学科名	IR・MICEマネジメント科					
【担当教員 実務者経験】						
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>ヒューマンスキルの一つである、コミュニケーション能力をゲームなどを通して体感して、学習する。</p>						
【到達目標】						
<p>人間関係に必要なコミュニケーション能力を習得</p>						
授業計画・内容						
1回目	キャリアサポートアンケート実施					
2回目	自由連想ゲーム：自己の公開とコミュニケーションの円滑な進め方を考えることができる					
3回目	性格フィードバック：「自分から見た自分」を理解し、「周りから見た自分」を知ることが出来る					
4回目	守護霊プレイ：自己開示することができ、相互理解を深めることができる					
5回目	ブレインストーミングとポジティブフィードバック：ブレインストーミングで、性格フィードバックで学んだ、NP(養育的な親心)とFC(自由な子供心)を体感でき、ポジティブフィードバックで肯定的側面を見る必要性を感じ、実践することができる					
6回目	内観レポート：身近な人への感謝の気持ちを育てることができる					
7回目	ブラインドワーク：指示の出し方を改善して、問題解決できる方法を学ぶ					
8回目	ティーチングとコーチング：フォロワー関心・願望を把握して、効果的に助言する方法を体験学習し、ティーチングとコーチングの効果的な方法を学ぶ					
9回目	栄養学教室：どのように話し合えば、正しい人の意見を活かすことができるのかを体験学習する					
10回目	ブラインドワーク：危機対処時のリーダーとフォロワーの関係を学ぶ					
11回目	価値交流学習：類似性の要因を数量化して把握でき、相互理解と受容を体験学習する					
12回目	アサーション：自分と相手を大切に表現技法を学ぶ					
13回目	提案力を鍛える：提案力を養うために必要な技法を学ぶ					
14回目	評価される人になるには：他社の目線に立つことで、自身を客観的に自己判断できる方法を学ぶ					
15回目	1年間の振り返り					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「レポート提出率」とする。					
受講生への メッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティング I) Business computing I	必修 選択	必須	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

20年以上大学や専門学校で情報処理の基礎教育に携わる。現在はWord・Excel・PowerPointを用いた情報処理の基礎講座と共に、統計処理(データマイニング)の講座を持つ。都市情報学 修士

【授業の学習内容】

AIの台頭により大きな転換期を迎える今、分析力・創造力を備えた人材が必要とされている。この授業ではWord・Excelの機能を知ること、思考を具現化するための表現力を身に付ける。単にソフトの機能を学ぶのではなく「何がしたいのか」⇒「そのためにはどの機能がよいか」の発想で授業を進める。WORDでは社内外文書の定型を知ると共に文書・レポートを作成するための機能を学ぶ。EXCELでは関数を含めた計算式の設定やデータベース、グラフ機能を学ぶ。また、毎回キータッチ速度を測定し、成長の可視化を図る。

【到達目標】

Word・・・表や図形を適切に配置した効果的かつ常識的なビジネス文書やレポートの作成ができる。
Excel・・・①関数を含む計算式を設定した作表ができる ②グラフを用いた数値の可視化ができる ③レポートや報告書作成のためのデータ分析を行い、分析結果から考察を導き出すことができる。

授業計画・内容

1回目	ITガイダンス・授業概要
2回目	WINDOWS基本操作・入力変換を理解する
3回目	WORD 文書の作成① 文字変換・修正・移動とコピーができるようになる
4回目	WORD 文書の作成② ビジネス文書の定型・ページ設定と印刷ができるようになる
5回目	WORD 文書の編集① 文字書式・段落書式の設定ができるようになる
6回目	WORD 文書の編集② タブとリーダー・箇条書きと段落番号の設定ができるようになる
7回目	WORD 図表① 表作成と編集ができるようになる
8回目	WORD 図表② 図形・ワードアート・スマートアート・画像挿入ができるようになる
9回目	WORD 総合文書作成演習(図表を含むビジネス文書)
10回目	WORD レポート・報告書(段組・スタイル・引用)の作成ができるようになる
11回目	EXCEL 基本操作・表作成と編集・効率よいデータ入力(オートフィル)ができるようになる
12回目	EXCEL 計算式の設定① 四則演算・基礎関数(SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT)が使えるようになる
13回目	EXCEL 計算式の設定② 絶対指定・相対指定が使えるようになる
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	ビジネスコンピューティング I 統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 70% ・課題提出物 30%
受講生へのメッセージ	仕事をする上で必要不可欠なWORD・EXCELの基礎知識と技術を学ぶ科目です。 課題に取り組みながら社会で通用する実践的なスキルを身に付けましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

- ・30時間でマスター Word&Excel 2010
- ・データ保存用として、各自USBを持参すること

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅡ) Business computing Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

20年以上大学や専門学校で情報処理の基礎教育に携わる。現在はWord・Excel・PowerPointを用いた情報処理の基礎講座と共に、統計処理(データマイニング)の講座を持つ。都市情報学 修士

【授業の学習内容】

AIの台頭により大きな転換期を迎える今、分析力・創造力を備えた人材が必要とされている。この授業ではWord・Excelの機能を知ること、思考を具現化するための表現力を身に付ける。単にソフトの機能を学ぶのではなく「何がしたいのか」⇒「そのためにはどの機能がよいか」の発想で授業を進める。WORDでは社内外文書の定型を知ると共に文書・レポートを作成するための機能を学ぶ。EXCELでは関数を含めた計算式の設定やデータベース、グラフ機能を学ぶ。また、毎回キータッチ速度を測定し、成長の可視化を図る。

【到達目標】

Word・・・表や図形を適切に配置した効果的かつ常識的なビジネス文書やレポートの作成ができる。
Excel・・・①関数を含む計算式を設定した作表ができる ②グラフを用いた数値の可視化ができる ③レポートや報告書作成のためのデータ分析を行い、分析結果から考察を導き出すことができる。

授業計画・内容

1回目	後期授業概要 Excel関数復習
2回目	Excel データベース機能を使えるようになる(テーブル・ソート・抽出)
3回目	ビッグデータとオープンデータの知識を習得する ・最近のトレンド ・オープンデータの活用 ・データの探し方
4回目	情報(論文)検索法 ・国内外のデータや情報・文献が検索できるようになる
5回目	データ分析ツールの利活用ができるようになる
6回目	データ分析演習 実際問題への適用ができるようになる
7回目	PP スライド作成手法① (デザインの選択・スライドの追加・レイアウトの変更・各種コンテンツの追加ができるようになる)
8回目	PP スライド作成手法② (アニメーションや画面切り替えなどスライドに動きをつけることができるようになる)
9回目	PP スライド作成手法③ (マスタースライドで共通の設定が利用できるようになる)
10回目	PP スライド作成手法④ (起承転結に沿った構成、ができるようになる)
11回目	PP スライド課題作成
12回目	PP スライド課題作成
13回目	PPプレゼンテーション 訴求力のある効果的なプレゼンテーションができるようになる
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	ビジネスコンピューティングⅡ 総括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・後期試験 70%
・課題提出物 30%

**受講生への
メッセージ**

仕事に生かせる知識と技術を身につけるために一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・データ保存用として、各自USBを持参すること

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコール I) Manor protocol I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期
【担当教員 実務者経験】							
関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電話電話ユーザ協会講師として電話応対コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。							
【授業の学習内容】							
日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコール、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコールを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコール」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコール検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。 							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーション: 授業の目的、進め方を理解できる。マナー・プロトコール検定3級の検定概要が理解できる マナーとは何か: 慶事・弔事の意味、マナー・エチケット・礼儀・作法の違い、マナーやプロトコールを学ぶ意義が説明できるようになる						
2回目	マナーの歴史と意味①: 日本の礼儀・作法の成り立ち、西洋のマナー、エチケットの成り立ちについて説明できるようになる						
3回目	序章・一章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる マナーの歴史と意味②: アジアのマナーについて説明できるようになる 国際人としてのプロトコール①: プロトコールの原則、具体的な席次例が説明できるようになる						
4回目	国際人としてのプロトコール②: 社交の場でのコミュニケーション、パーティの種類とマナー、挨拶・握手と紹介のマナーについて説明できるようになる						
5回目	国際人としてのプロトコール③: 外国人への贈り物、国旗の扱い、礼拝の場でのマナー、異文化コミュニケーション、日本の伝統文化について説明できるようになる 国旗掲揚ワークで掲揚方法を体感することにより、正しい国旗掲揚ができるようになる						
6回目	二章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 社会人に必要なマナー①: 第一印象の重要性、表情、挨拶、お辞儀、身だしなみ、立ち居振る舞い、敬語の種類と変換について説明できるようになる						
7回目	社会人に必要なマナー②: 敬語の注意点、敬称のつけ方、クッション言葉、聴き方の基本、話し方の基本について説明できるようになる 言葉遣いワークで正しい言葉遣いを徹底的に習得することにより、就職活動や社会生活で適切な言葉が活用できるようになる						
8回目	社会人に必要なマナー③: 和装・洋装のマナーについて説明できるようになる						
9回目	社会人に必要なマナー④: 喜ばれる贈答、祝儀袋・不祝儀袋のマナーと使い方について説明できるようになる 祝儀袋・不祝儀袋ワークで表書きを練習することにより、正しく表書きできるようになる						
10回目	社会人に必要なマナー⑤: 手紙のマナーについて説明できるようになる 手紙作成ワークで書き方を練習することにより、正しく手紙が書けるようになる						
11回目	三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ビジネスシーンのマナー①: ビジネスマナーの必要性、社会人の心構え、会社の仕組み、プロ意識、仕事の進め方、名刺の扱い方について説明できるようになる 名刺交換ワークで名刺交換を練習することにより、正しく名刺交換できるようになる						
12回目	ビジネスシーンのマナー②: 電話応対のマナー、トラブル対応、来客応対のマナーについて説明できるようになる 電話応対・来客応対ワークで応対練習をすることにより、好印象な接客応対ができるようになる						
13回目	ビジネスシーンのマナー③: ビジネス文書のマナー、電子メールのマナーについて説明できるようになる						
14回目	1～13回目の授業を振り返り、自身の強み・弱みを認識する						
15回目	四章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる 総合の振り返りおよび質疑応答をすることで、さらに自信を持ってマナーを実践できるようになる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。						
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコール3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張りましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
マナー&プロトコールの基礎知識							

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (マナー・プロトコルⅡ) Manor protocol Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
【担当教員 実務者経験】						
<p>関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会入賞者を輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコル協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。</p>						
【授業の学習内容】						
<p>日本において長く継承されてきた礼儀作法・しきたり、国際儀礼として習得すべきプロトコル、ビジネスにおけるマナー等について、知識はもちろんのこと、意味や歴史を学ぶことで、「相手を尊重し、思いやる心」がより一層高まるとともに、目に見える「形」としてスムーズに表現できるようになると考える。当授業は、マナーやプロトコルを習得することで自身に自信をつけ、就職活動や社会生活におけるキャリア形成にも役立てていただける内容である。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重し、思いやる心を持ち、その心を「立ち居振る舞い」や「言葉」で表現できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「マナー」や「プロトコル」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 ・前・後期授業終了後、後期授業最終回に学内で実施するマナー・プロトコル検定3級にチャレンジし、納得のいく結果を出す。 						
授業計画・内容						
1回目	食事のマナー①: テーブルマナーの基本、和食のマナー、日本料理の基本知識、食事のいただき方、美しい箸使いについて説明できるようになる					
2回目	食事のマナー②: 食事時のタブー、和室の作法、西洋料理のマナー、テーブルセッティング、カトラリーの使い方、食事のいただき方について説明できるようになる					
3回目	食事のマナー③: 中国料理と各国料理のマナーについて説明できるようになる 「冠」のしきたり①: 冠婚葬祭、陰陽道の考え方、日本の主な通過儀礼について説明できるようになる					
4回目	「冠」のしきたり②: 出産祝い、七五三のお祝い、入園・入学祝い、その他のお祝い事について説明できるようになる 「婚」のしきたり①: 結婚の変遷、結納のマナーについて説明できるようになる					
5回目	「婚」のしきたり②: 挙式のスタイル、服装のルール、招待状のマナー、会場でのマナー、ふくさの使い方について説明できるようになる 「葬」のしきたり①: 仏式の葬儀、神式の葬儀、キリスト教式の葬儀について説明できるようになる					
6回目	「葬」のしきたり②: 葬儀・告別式でのマナー、法要のしきたりについて説明できるようになる 「祭」のしきたり①: 1月～2月の行事について説明できるようになる					
7回目	「祭」のしきたり②: 3～12月の行事の行事について説明できるようになる					
8回目	模擬試験問題への取り組みにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる					
9回目	理解度確認①: 序章～三章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ①の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる					
10回目	理解度確認②: 四章～五章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ②の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる					
11回目	理解度確認③: 七章～十章の授業内容を出題するテストにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる ③の振り返りにより、自身の強み・弱みを認識するとともに、弱みの改善ができる					
12回目	習熟度確認への取り組みにより、自身の理解度が確認でき、課題点が明確になる					
13回目	1～12回目の授業を振り返り					
14回目	マナー・プロトコル統括					
15回目	マナー・プロトコル検定3級 試験実施					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。					
受講生へのメッセージ	前後期終了後にマナープロトコル3級検定を受験する授業です。合格することで自信につながり、就職活動時にもアピールができます。また、1年間かけてマナーを学ぶことで好印象を与えるマナーが実践できるようになります。1年間頑張ってください。					
【使用教科書・教材・参考書】						
マナー&プロトコルの基礎知識						

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道 I 男性) Japanese calligraphy I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

平成6年、大学卒業後、一般企業に勤めていたが、平成11年より自宅にて書道教室を開塾。平成26年より、故 江口大象 氏(書道研究 璞社 会長)に師事。令和元年、書道研究 璞社 理事に昇格。令和2年、山本 大悦 氏(書道研究 璞社 現会長)に師事。書家として活動中。

【授業の学習内容】

日本の伝統である、《書道》に触れ親しむことで、おもてなしの心と精神を養う。前期は、ボールペン字で《漢字と平仮名等》を正しく、美しく書けるようになる。縦書きは勿論、横書きにも取り組む。

【到達目標】

ボールペン字で、暑中見舞いの葉書、封筒、便箋の書き方。履歴書の書き方に取り組み、印刷文字に依らない《手書き》の基本を習得する。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション。自己紹介。PPにて書道についての説明
2回目	50音の練習
3回目	自身の名前、暑中見舞いを出したい相手、親、兄弟、親戚、友人、知人等、名前の練習
4回目	住所(県名、学校名等・・・)の練習①
5回目	住所(県名、学校名等・・・)の練習②
6回目	暑中見舞い 練習①
7回目	暑中見舞い 練習②
8回目	暑中見舞い完成。ポストへ投函
9回目	封筒の書き方(表書き、裏書)の練習
10回目	便箋の書き方(つづけ文字)の練習①
11回目	便箋の書き方の練習②
12回目	履歴書の書き方の練習①
13回目	履歴書の書き方の練習②
14回目	封筒(表裏)と便箋の書き方
15回目	前期振り返りと、実践

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「作品評価の点数」とする。

受講生への メッセージ

スマホなどの普及で、世の中が便利になり、気持ちを言葉で伝えたりする手段としての【文字を書く】ということが少なくなっています。
この授業では、【文字を美しく書く】ことを目標にしますが、上手く出来なくてもかまいません。上手く書こうとする姿勢を大切にします。心を落ち着けて、真剣に丁寧に取組んで欲しいです。
そして、その先に人間的に少しでも大きくなって、おもてなしの心を養って欲しいです。

【使用教科書・教材・参考書】

ペン字練習用箋

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道Ⅱ 男性) Japanese calligraphy II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

平成6年、大学卒業後、一般企業に勤めていたが、平成11年より自宅にて書道教室を開塾。平成26年より、故 江口大象 氏(書道研究 瑛社 会長)に師事。令和元年、書道研究 瑛社 理事に昇格。令和2年、山本 大悦 氏(書道研究 瑛社 現会長)に師事。書家として活動中。

【授業の学習内容】

日本の伝統である、《書道》に触れ親しむことで、おもてなしの心と精神を養う。前期は、ボールペン字で《漢字と平仮名等》を正しく、美しく書けるようになる。縦書きは勿論、横書きにも取り組む。

【到達目標】

筆ペンにて、のし袋などの書き方。ボールペン字で履歴書や便箋の書き方に取り組み、印刷文字に依らない《手書き》の基本を習得する。

授業計画・内容

1回目	履歴書の良い例、悪い例を考えさせ、そして良い例の練習
2回目	筆ペン…名前(自身、親、兄弟、親戚、友人、知人、学校等)の練習。
3回目	筆ペン…住所(自身、学校、他等)、元号、日付けなどの練習。
4回目	筆ペン…ひらがな、カタカナ、漢数字、の練習。
5回目	筆ペン…《御祝、御礼、お見舞い、寸志、内祝、御饞別》などの練習。
6回目	筆ペン…《御霊前、御香典、御供、御仏前、》などの練習。
7回目	筆ペン…のし袋練習用紙への練習。
8回目	筆ペン…のし袋(現物)への実践書き1
9回目	筆ペン…のし袋(現物)への実践書き2
10回目	筆ペンによる詩文のちらし書き 基礎編1
11回目	筆ペンによる詩文のちらし書き 基礎編2
12回目	筆ペンによる詩文のちらし書き 基礎編2
13回目	筆ペンによる詩文のちらし書き 基礎編4
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	作品制作

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「作品評価の点数」とする。

受講生への メッセージ

スマホなどの普及で、世の中が便利になり、気持ちを言葉で伝えたりする手段としての【文字を書く】ということが少なくなっています。
この授業では、【文字を美しく書く】ことを目標にしますが、上手く出来なくてもかまいません。上手く書こうとする姿勢を大切にします。心を落ち着けて、真剣に丁寧に取組んで欲しいです。
そして、その先に人間的に少しでも大きくなって、おもてなしの心を養って欲しいです。

【使用教科書・教材・参考書】

ペン字練習用箋

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付 I 女性) Kitsuke I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、着物や帯のたたみ方、浴衣の自装・他装の習得から長襦袢と袴の着物までの自装ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 ミニ講義「サービス業での着付けの重要性」 座礼、着物のたたみ方、準備を学ぶ。
2回目	【ペア練習①】デモンストレーション 浴衣の他装を学ぶ。
3回目	【ペア練習②】浴衣の他装を学ぶ。
4回目	【ペア練習③】浴衣の半幅帯の他装を学ぶ。
5回目	【ペア練習④】 ミニ講義「着物の歴史」 浴衣の他装ができるようになる。
6回目	【個人練習①】浴衣の自装を学ぶ。
7回目	【個人練習②】半幅帯の自装を学ぶ。
8回目	【個人練習③】半幅帯の変わり結びができるようになる。
9回目	【個人練習④】浴衣の自装ができるようになる。
10回目	1回目～9回目までの授業の振り返り
11回目	浴衣でカフェにお出かけ 着物の所作を学ぶ。
12回目	【袴の着物自装①】 ミニ講義「冠婚葬祭の着物」 長襦袢のたたみ方、着方を学ぶ。
13回目	【袴の着物自装②】 デモンストレーション 着物の着方を学ぶ。
14回目	【袴の着物自装③】 ミニ講義「着物の模様・染」 着物の着方を学ぶ。
15回目	【袴の着物自装④】 着物までの自装ができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・自装テスト+筆記テスト

受講生への メッセージ

実技中心の授業となります。復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとて大切になります。一緒に頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル
髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってきてください。

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (着付Ⅱ 女性) Kitsuke Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

装道礼法着付学院で資格を取得後、複数の美容院で着付を担当する。ブライダル業界で新郎新婦列席者の着付及びアテンドをフリーで行っている。

【授業の学習内容】

数ある日本の伝統文化に関わりのある着物に関わる知識を深めることで広く伝統文化にふれ、着付という現代では専門的な技術を学ぶ。

【到達目標】

着物にまつわる知識や歴史を知り、名古屋帯での太鼓結びの自装から変わり結びの他装、袴の他装ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	名古屋帯のたたみ方 太鼓結びの自装を学ぶ。
2回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
3回目	ミニ講義「織の着物・織の帯・染の帯」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
4回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
5回目	袴のたたみ方 袴の他装を学ぶ。
6回目	袴の他装ができるようになる。
7回目	ミニ講義「季節の舞妓かんざし」 帯揚げ・帯締めの変り結びができるようになる。
8回目	名古屋帯で変わり結びの他装ができるようになる。
9回目	ミニ講義「家紋」 名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
10回目	着物の習熟度確認
11回目	名古屋帯で太鼓結びの自装を学ぶ。
12回目	名古屋帯で太鼓結びの自装ができるようになる。
13回目	名古屋帯の習熟度確認(帯・帯揚げ・帯締め)
14回目	振袖の他装を学ぶ。
15回目	振袖の他装を学ぶ。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・自装テスト+筆記テスト

受講生への メッセージ

実技中心の授業となります。復習しながら新しいことを積み重ねて習得するので、毎回の授業の流れがとて大切になります。一緒に頑張りましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

足袋、肌襦袢、長襦袢、補正タオル
髪が長い方は必ず髪ゴム・髪留めをもってください。

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティング・セールス (マーケティング I) Marketing I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。 <エマーゼンス・ジャパン合同会社 代表> https://emergence-japan.com/							
【授業の学習内容】							
企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に着け、プランナーとしての基礎能力をつける。							
【到達目標】							
サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、提案できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	【オリエンテーション】 企画立案から企画書作成、プレゼンテーションまでの流れと概要を理解する
2回目	【マーケティング①】 課題を構成する要素を分析し、定義を明確にできるようになる
3回目	【マーケティング②】 分解要素をリサーチし、課題を再定義できるようになる
4回目	【マーケティング】 業界の動向やトレンドを調査し、ポジショニングできるようになる
5回目	【コンセプト】 ミッションとコアアイデアを立案できるようになる
6回目	【ブレインストーミング①】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
7回目	【ブレインストーミング②】 コアアイデアを実現する具体策の発案ができるようになる
8回目	【ブレインストーミング③】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる
9回目	【ブレインストーミング④】 コアアイデアを実現する具体策をブラッシュアップできるようになる <演習実施>
10回目	【企画立案】 アイデアの実現性を検討し、プロジェクトへ昇華できるようになる
11回目	【プレゼン資料の作成】 プレゼン資料の効果的な構成を理解し、土台を作れるようになる
12回目	【プレゼン資料の作成】 効果的なプレゼン資料が作成できるようになる
13回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習①とフィードバック <演習実施>
14回目	【プレゼンテーション】 チームごとにプレゼンテーションの演習②
15回目	【振り返り】 半年間の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・演習課題の完成度 100%
受講生へのメッセージ	これから創造力が重要性を増す時代です。 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン	

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティング・セールス (マーケティングⅡ) Marketing II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経歴】

15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。
 <エマーゼンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

マーケティングはいかなる企業に勤めても不可欠の知識であり、本授業ではリサーチから売り方まで全体の流れを通じて、マーケティングを学習する

【到達目標】

マーケティングに必要な知識を習得し、実践できるようになる

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション) マーケティングの全体像を理解する
2回目	【購買心理①】 購買意欲を刺激する心理を理解し、効果的なアプローチができるようになる
3回目	【購買心理②】 購買意欲を刺激する心理を理解し、効果的なアプローチができるようになる
4回目	【インターネットマーケティング①】 インターネットマーケティングの基礎を理解し、実践できる知識をつける
5回目	【インターネットマーケティング②】 インターネットマーケティングの基礎を理解し、実践できる知識をつける
6回目	売り方を変えて業績を伸ばした企業を研究し
7回目	売り方を変えて業績を伸ばした企業例
8回目	【セールスライティング①】 効果的なセールスライティングを学び、実践できるようになる
9回目	【セールスライティング②】 効果的なセールスライティングを学び、実践できるようになる
10回目	【グループワーク 課題①】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
11回目	【グループワーク 課題②】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
12回目	【グループワーク 課題③】 学んだマーケティング手法を用いて、課題対象のマーケティング案を考案する
13回目	【グループワーク 発表】 課題対象のマーケティング案を発表する(レポート提出)
14回目	【一年間の振り返り】 前期の振り返り
15回目	【一年間の振り返り】 後期の振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・演習課題の完成度 100%

受講生への メッセージ

マーケティングはあらゆる企業にとって必要な活動です。
 学生時代にしっかり基礎を抑えておきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (料飲・レストランオペレーション I) Food & Beverage・Restaurant Operation I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICE マネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ペイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在 榎北山貿易のホテル部門に在籍中。
神戸ペイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。
料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。

【授業の学習内容】

レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。
レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。

【到達目標】

FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指します。

授業計画・内容

1回目	開講に際して講師挨拶と自己紹介、学生全員の自己紹介自己PRなどを行う ホテルの業種や業界、組織図について知ることができる
2回目	ソーシャルスタイル(4つの個性、特徴)を学び自分を知る、さらに相手を知ることができる
3回目	基本の動作および接客用語を実際に使い習得することができる(接客用語と礼、歩き方、ノック、お迎え、お見送りまで)
4回目	OE(シルバークラウド、チャイナウェア、グラスウェア、リネン)、FF&Eなどの用語や用途、取り扱いが理解できる サービススタンダードとは何かを理解できる
5回目	レポートと5W1Hの重要性及び”ホウレンソウ”とは何かを知ることができる プレゼンテーションスキルを身につけることができる (相手にメッセージを伝える技術)
6回目	基本的なテーブルマナーを知ることができる
7回目	レストランとバンケットの基本のテーブルセッティングを習得できる
8回目	メニューとオーダーテイク、ドリンクサービスを体験しそれを理解できる (コーヒーカップ、ソーサー、ゴブレット、タンブラー、ワイングラスなどの扱い方)
9回目	オーダーテイクとフードサービスを体験しそれを理解できる (プレート、プラッター、サーバー、チューリンなどの扱い方)
10回目	予約と電話応対を実際に行い重要なポイントを習得できる
11回目	FBサービスの一連の動作確認とゲストとの会話を体験し重要なポイントを習得できる
12回目	コンプレイン、クレームとは何か、そしてどのように対応をするのかを理解できる 課題指示
13回目	課題について各自でプレゼンを行い、講評を行う
14回目	層復習
15回目	試験についてのフィードバック 後期の学習内容について
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。 ・
受講生へのメッセージ	全員参加を基本とします。グループワークやアクティビティも取り入れ授業を進めていきます。 講師からの一方通行ではなく出席者には必ず発言を求め、動きを求める授業にしたいと考えます。 一流のホテルエを目指して頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

テキスト、OE、リネンなど

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究 I) Company Research I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サービスコンクール世界大会運営委員。 CGBサービスコンクール日本大会 審査員							
【授業の学習内容】							
企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。							
【到達目標】							
ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。							
授業計画・内容							
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。						
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。						
3回目	【研究概要の構築】 ・1. 企画書の目的設定を行う。 ・2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。						
4回目	【研究内容の構築】 ・プランの絞り込みを行い、提案内容の実行できる方法論の策定、予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。						
5回目	【プレゼンテーション内容決定】1 ・問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。						
6回目	【プレゼンテーション資料作成】 提案書の作成 問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また問題点とその解決方法を考えることができる。						
7回目	【プレゼンテーション資料作成】 提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
8回目	【プレゼンテーション資料作成】 提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
9回目	【プレゼンテーション資料完成】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
10回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。						
11回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・企画書の目的設定精査を行う。 ・ゲストターゲットの設定精査を行う。 ・前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。						
12回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
13回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
14回目	【プレゼンテーション最終確認】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
15回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業を聴く態度・制作する態度・チームワーク25%、企画内容評価25%						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅰ) English for Study abroad I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

英語に対して苦手意識を持っていたり、英語力が伸び悩むのは中高の英語学習に対する苦手意識が原因であることがほとんどです。この授業ではもう一度中高の英文法を、最優先事項にのみ絞って復習します。また、改めて学んだ英文法を使って文章読解を行うことで、自分の身に付けた能力が活かされているという体験をしていきます。
 さらに、他の英語の先生方とも連携をし英文法のみならず英会話の場面においても英文法が大事であるということを学んでいきます。

【到達目標】

英文法を基礎からしっかりとマスターし、自分の英文法の知識を整理する。その上で、英文を読んでいくことで、どんな文章や会話でも自力で理解できる力を身に付けます。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション・文の成り立ち・英語の構造について / 日本語との違いを構造から理解することでこれから学習していく基礎が作れるようになる。
2回目	Be動詞について / Be動詞の役割を理解することでこれらの英語学習の基盤ができ、学習がしやすくなる。
3回目	一般動詞について / 英語の根幹となる一般動詞の役割を理解できるようになる。
4回目	過去形(Be動詞)について / Be動詞の過去形の文章が読めたり、自分で文章を作ることができるようになる。
5回目	過去形(一般動詞)について / 一般動詞の過去形が使えることで自分自身で文章を作ることができるようになる。
6回目	進行形(現在形・過去形) について / これまでに学んだ知識を踏まえて進行形を学ぶことで、進行形の感覚を掴む。
7回目	未来形について / 未来形と助動詞についての理解を深める。
8回目	助動詞について / 助動詞のルールを知るだけでなく、コアの意味を理解することで正しく助動詞が使えるようになる。
9回目	受動態について / これまで学んできた能動態ではない文章の感覚を掴むことで、受動態の文章を自ら作り、使えるようになる。
10回目	現在完了形(概念・継続) / 日本語にはない現在完了の概念を理解し、現在完了の文章が読み書きできるようになる。
11回目	現在完了形(経験・疑問/否定) について / 前回の知識を応用して疑問文・否定文を学ぶことで、より現在完了の文章を日常会話で取り入れられるようになる。
12回目	不定詞・動名詞について / 英語の幅を広げる上で非常に大事な不定詞・動名詞を理解することで、より具体的な文章を書けるようになる。
13回目	第4文型・第5文型 / 高校で学習し混乱しがちな2つの文型を復習することで、英語の苦手意識を克服できるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	留学英語Ⅰの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・前期試験 筆記試験100点の40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	皆さんの中には英語に対して苦手意識を持っている方もいらっしゃるかと思います。ですが、中高の英文法をきっちりマスターし理解を深めることで確実に英語力は伸びていき苦手意識も自然と拭えるようになります。 また、留学を控えている方は海外でのコミュニケーションに大きな不安を抱いておられるかと思いますが、基礎力があれば会話は成立します。中高の時には分からなかった文法も一緒に楽しく学べば必ず理解できることと思いますので、一緒に頑張りましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
	TOEICテスト書き込みノート 文法編 (Gakken)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (留学英語Ⅱ) English for Study abroad Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

前半部は前期で扱いきれなかった内容や、留学に向けて必要な文法の知識を学ぶ。
中盤から後半にかけては、「童話」をグループ毎に分かれて英訳をしていき最後に全員の前で発表を行う。

【到達目標】

来年に控える留学に向けて、文法の基礎が頭に入っているだけでなくそれらを使って表現をすることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	第4文型 / 第5文型：高校英語のSVOOとSVOCを正しく使い分けができるようになる。
2回目	比較①：比較級の文法が理解出来て、読めるようになる。
3回目	比較②：比較の最上級の文法が理解出来て、読めるようになる。
4回目	関係代名詞①：関係代名詞の働きを理解できるようになる。
5回目	関係代名詞②：前回の内容を踏まえて更に発展的な関係代名詞の文章が読めるようになる。
6回目	句と節：句と節それぞれの定義を理解することで文章を区切って読めるようになる。
7回目	前置詞：前置詞の働きと使い方を理解することでより具体的な描写ができるようになる。
8回目	接続詞①：接続詞の名詞節の働きが理解できるようになる。
9回目	接続詞②：従位接続詞の副詞節の役割が理解出来て、より長い文章を読めるようになる。
10回目	品詞①：英語における名詞と冠詞の役割を理解できるようになる。
11回目	品詞②：形容詞・副詞の働きを理解し、文章をかたまりで捉えられるようになる。
12回目	疑問詞①：5W1Hを理解することで、相手により具体的な質問ができるようになる。
13回目	疑問詞②：Howを使った文章を理解することで留学中でも困らないような質問ができるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	留学英語Ⅱの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・後期筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生への メッセージ

留学まで残り半年ですので、毎回出席して準備万端で出発できるようにしましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

TOEICテスト書き込みノート 文法編 (Gakken)

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (イングリッシュコミュニケーションⅠ) English Communication I	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。
本授業では、留学英語、実践英会話で学んだ「スピーキング力」の基礎をネイティブ講師と共に実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーションを実際の英会話でできるようになる。
(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応など/(英検3級合格レベル))

回数	授業計画・内容
1回目	オリエンテーション、文の成り立ちを理解する。
2回目	「be動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「一般動詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「過去形(be動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「過去形(一般動詞)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
6回目	「進行形(現在 / 過去 / 未来)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
7回目	「未来形(will / be going to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
8回目	「助動詞(can / may / should / must / have to)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
9回目	「受動態」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
10回目	「現在完了形①(概念 / 継続)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
11回目	「現在完了形②(経験 / 疑問 / 否定)」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
12回目	「不定詞 / 動名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
13回目	「第4文型 / 第5文型」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	イングリッシュコミュニケーションⅠの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ(100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (イングリッシュコミュニケーションⅡ) English Communication Ⅱ	必修 選択	必須 選択	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

「英会話(英語という言語を使用してのコミュニケーション)」においては、「概念化(言いたいことをシンプルにまとめる力)」「文章化(日本語を瞬時に英語に変換する力)」「音声化(発音力)」が必要不可欠となる。
本授業では、留学英語、実践英会話で学んだ「スピーキング力」の基礎をネイティブ講師と共に実践的課題(1分スピーチ、瞬間英作文、フォニックス)を通して学習する。

【到達目標】

中学校レベルの英語の仕組みをマスターし、最低限のコミュニケーションを実際の英会話でできるようになる。
(お店でのやりとり、道を聞かれた時の対応など/(英検3級合格レベル)

回数	授業計画・内容
1回目	「現在完了形」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
2回目	「比較級」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
3回目	「関係代名詞」の基本的な文章を使いこなせるようになる。
4回目	「関係代名詞」の応用的な文章を使いこなせるようになる。
5回目	「区と節」を理解して使いこなせるようになる。
6回目	「前置詞」を理解して使いこなせるようになる。
7回目	「接続詞(名詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
8回目	「接続詞(副詞節)」を理解して使いこなせるようになる。
9回目	「品詞(名詞、冠詞)」を理解して使いこなせるようになる。
10回目	「品詞(形容詞、副詞)」を理解して使いこなせるようになる。
11回目	「疑問詞」を理解して使いこなせるようになる。
12回目	「疑問詞(How)」を理解して使いこなせるようになる。
13回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
14回目	7回目～12回目までの授業の振り返り
15回目	1年間で学んだ文法の総復習を行なうことで留学への弾みをつける。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40% とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・質問に対しての1分スピーチのクオリティ (100%) ※①概念化②文章化③音声化の3観点で評価
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅡ) Food & Beverage・Restaurant OperationⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

ホテルオークラ神戸のオープニングスタッフとして入社。その後ホテルの立ち上げや、料飲レストラン&バー、宿泊などの実務経験を積む。

【授業の学習内容】

日本料理のマナー及びサービスの学習をする。

【到達目標】

実践ですぐに役に立つ日本料理のマナーとサービスが出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	自己紹介 授業概要、目的、カリキュラムの説明
2回目	基本の日本料理を理解出来るようになる①
3回目	基本の日本料理を理解出来るようになる②
4回目	和室での立居振る舞いが出来るようになる①
5回目	和室での立居振る舞いが出来るようになる②
6回目	日本料理の食事のマナーを理解出来るようになる①
7回目	日本料理の食事のマナーを理解出来るようになる②
8回目	授業の総復習
9回目	1回目～8回目までの授業の振り返り
10回目	日本料理の接客・サービスを理解出来るようになる①
11回目	日本料理の接客・サービスが理解出来るようになる②
12回目	日本料理の接客・サービスが出来るようになる①
13回目	日本料理の接客・サービスが出来るようになる②
14回目	10回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	料飲・レストランオペレーションⅡの授業で学んだ知識、技術の総復習をする

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。

- ・前半試験50%
- ・後半試験50%合計100%

**受講生への
メッセージ**

日本人だからこそ知っていて欲しい日本料理に興味を持ってもらいたと思います。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習 I (ホテル基礎 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	Hotel Basic I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1981年4月神戸ポートピアホテル入社。フレンチレストランをはじめ、宴会サービス、レストランマネージャー、VIPアテンドなど携わる。専門学校にて、ホテル学科長、キャリアサポート、プライダル学科設立など経験する。ホテル学科だけで3000名の卒業生を輩出する。2004年9月関西唯一のホテル専門の教育・人材会社、株式会社ホテルiestスタッフ設立。関西のホテル業界を中心に教育と人材の供給に努めている。

【授業の学習内容】

ホテル業界の接客・接客、ホテルの歴史、ホテル業界の現状・将来性・課題などを幅広く学び、ホテル業界の魅力を持ってもらうこと目標とする。また、国内および海外のホテルチェーンも学び、将来の就職先の目安を決められるようになります。そして、ホテル業界の基本的なマナー・ホスピタリティを学び、ホテル業界での心構えも習得する。

【到達目標】

国内の様々なホテルチェーンや外資系のホテルチェーンを学び、それぞれの希望の将来の就職先のホテルを決めることができるようになる。そして、ホテルの基本を学び、ホテルマンらしい振る舞いや行動、言動などができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師の自己紹介・ホテル基礎の授業の概要と進め方・重要性を理解することができるようになる。
2回目	接客の基本、第一印象やキャスト・お辞儀の重要性を学び、接客の基本を理解できるようになる。
3回目	ホテルでの接客・接客・サービスをプロのホテルエの立場から解説するため、さらに接客の重要性や魅力を理解できるようになる。
4回目	ホテル業界でのサービス・接客・おもてなしを探り、個々の目標を持つことができるようになる。
5回目	ホテル業界の将来性・魅力を学び、ホテル業界の憧れを現実的に知ることができる。
6回目	ホテルの語源・定義や観光業界でのホテルの位置づけを学び、ホテルの基本を把握することができるようになる。
7回目	ホテルの組織・役割・各部署(宿泊・料飲・宴会・営業・管理)などを知ることにより、ホテルでの具体的な仕事を学ぶ。
8回目	海外のホテルチェーンの歴史を日本の既存ホテルから学び、将来の就職先のホテルの目標を持つことができるようになる。
9回目	国内の日本資本のホテルの歴史を学び、外資系と比較し、将来の就職先のホテルとして位置づけることができるようになる。
10回目	リゾートホテル・ビジネスホテル・旅館・ゲストハウスなど関西を中心にその他の宿泊施設の紹介。シティホテルとの比較ができるようになる。
11回目	世界と日本のホテルの格付けとレストランの格付けを学び、各ホテルの比較ができるようになる。
12回目	アルバイト・インターンシップのホテル業界の心構えを学び、実際の職場で役立てることができる。
13回目	ホテル業界でのマネジメントの基礎を学び、現在のアルバイト、将来の仕事で活かせることができる。
14回目	振り返り
15回目	総まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

ホテル業界の基礎から現状、そしてホテルの紹介と幅広くホテル業界を学んでいきます。そして、接客や心構えなどホテル業界の裏側も学びますので、ホテル業界の魅力や将来性をきっと見つけることができると思います。最終的には、ホテルマンらしい振る舞いや行動が自信を持ってできるようになりますので、積極的に授業に望んでいただけることを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習 I (宿泊オペレーション II) Operation of Front Office II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期授業の振り返りと後期授業の概要説明並びに意見交換を行い、全員でコミュニケーションを図り、今後の授業目標を改めて再確認することができる。
2回目	宿泊部門の使命と役割： 宿泊部門の使命と役割／予約→チェックイン→チェックアウト→清掃までの流れを解説し、理解することができる。
3回目	ベルマン： ベルマン業務の実践と各場面ごとのロールプレイングを行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
4回目	ドアマン/クローク： ドアマン/クローク業務の実践と各場面ごとのロールプレイングを行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
5回目	リザーベーション： リザーベーション業務の実践とロールプレイング/TAPシステムによる予約受注業務/宿泊プラン作成実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
6回目	レセプション： レセプション業務の実践とロールプレイング/TAPシステムによるチェックイン業務実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
7回目	キャッシャー： キャッシャー業務の実践とロールプレイング/TAPシステムによるチェックアウト業務実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
8回目	コンシェルジュ： コンシェルジュ業務の実践とロールプレイングを行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
9回目	エグゼクティブフロア： エグゼクティブフロア業務の実践とロールプレイングを行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
10回目	ハウスキーピング①： ハウスキーピング業務の実践とロールプレイング/ベットメイキング実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
11回目	ハウスキーピング②： ハウスキーピング業務の実践とロールプレイング/PMP実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
12回目	シミュレーション&ロールプレイング： 宿泊業務全般のロールプレイング/TAP宿泊システム業務実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
13回目	後期授業内容振り返り
14回目	宿泊業務統括①： 宿泊業務全般のロールプレイング/TAP宿泊システムのシミュレーション実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる
15回目	宿泊業務統括②： 宿泊業務全般のロールプレイング/TAP宿泊システムのシミュレーション実習を行うことで、お客様への細かいホスピタリティを学ぶことができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本：宿泊業務の基礎/フロント・オフィス・システム&オペレーション *財団法人日本ホテル教育センター監修
・使用ソフト：TAP宿泊システム

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーション I) Operation of Front Office I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

宿泊部門の各セクションの役割と連動を認識し、ロールプレイングを行うことで接客スキルの向上と基本業務スキルを習得する。
現在のホテルゲストのニーズや傾向を学び、おもてなしの引き出しを多く持てる実践型の授業内容とする。

【到達目標】

ホテルの顔として、宿泊部門で必要とされる表情・姿勢・接客用語を習得し実践演習を行うことによって即戦力としての技能を身につけ、自信を持って活躍できるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期授業の概要説明並びに自己紹介を通じて全員で宿泊部門の疑問点や不安解消に向けてコミュニケーションを図る。
2回目	(宿泊部門の使命と役割) 予約⇒チェックイン⇒チェックアウト⇒清掃までの一連の流れを学ぶことができる。
3回目	(ベル業務の理解) ベル業務の1日を通しての内容を理解し、ゲストの誘導方法やワゴンの使い方をロールプレイングを通じて学ぶことができる。
4回目	(ベル業務の応用①) お部屋までのご案内や観光施設へのインフォメーション業務をロールプレイングを通じて学ぶことができる。
5回目	(ベル業務の応用②) ドア業務の内容を理解し、到着⇒お出迎え⇒フロントまでのご案内⇒お部屋までのご案内をロールプレイングを通じて学ぶことができる。
6回目	(クローク業務の理解) クローク業務の1日を通しての内容を理解し、クロークタグの結び方を習得することができる。
7回目	(クローク業務の応用) お荷物のお預かり⇒お渡しまでの業務をロールプレイングを通じて学ぶことができる。
8回目	(ハウスキーピング業務の理解) 客室業務の1日を通しての内容を理解し、お部屋の備品や装備を知る。
9回目	(ハウスキーピング業務の応用①) ベッドメイク業務を理解し、ロールプレイングを通じて学ぶことができる。
10回目	(ハウスキーピング業務の応用②) ベッドメイク業務を未清掃状態⇒清掃完了状態まで時間管理を行いながら出来るようになる。
11回目	(コンシェルジュ業務の理解) コンシェルジュ業務の1日を通しての内容を理解し、観光施設やレストラン情報を収集することができる。
12回目	(コンシェルジュ業務の応用①) 観光施設やレストラン案内業務をロールプレイングを通じて学ぶことができる。
13回目	(コンシェルジュ業務の応用②) ゲストの要望を組み取った観光プランの策定と提案をプレゼンテーションを通じて学ぶことができる。
14回目	(振り返り) 1～13回目の授業を振り返る。宿泊部門の基本業務の再確認を行うことができる。
15回目	(統括) ロールプレイングを行い前期の宿泊部門業務を流れて再確認して宿泊業務への自信と意欲を手に入れることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

・前期試験 実技試験 30点 + 筆記試験 70点の合計100点とし40%計算を行う。

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

・使用教本: 宿泊業務の基礎/フロント・オフィス・システム & オペレーション *財団法人日本ホテル教育センター監修
・使用ソフト: TAP宿泊システム

授業シラバス

科目名 (英)	リゾート・ホテルオペレーション (IR基礎) IR Basic	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

東洋大学国際観光学部教授,IR(Integrated Resort)*ゲーミング学会理事,日本ホスピタリティ・マネジメント学会理事,2018年7月13日参議院内閣委員会にIRの専門家として呼ばれる。

【授業の学習内容】

2018年夏にカジノを収益のエンジンとしたIR(Integrated Resort)を合法化するための法案が可決された。まだ日本ではIRとカジノを同じものにとらえる風潮が残っているがそれは間違いである。また、日本ではカジノを合法化する最後発の国となり、なおかつ世界で規制が最も厳しくなりそうである。本講義では日本のIRの「本質」を学習する。

【到達目標】

①観光産業にどのような形でIRが寄与できるかを理解できる。②日本におけるIRの制度がどのようなものであるかについて深く理解できる。

授業計画・内容

1回目	はじめに(ガイダンス)
2回目	日本における観光政策の流れについて理解できるようになる。
3回目	1964年東京オリンピック、2020年東京オリンピック、1970年大阪万博、2025年大阪万博について理解できるようになる。
4回目	日本における合法的なギャンブル産業について理解できるようになる。
5回目	日本におけるギャンブル依存症対策について理解できるようになる。
6回目	日本におけるIRの制度設計について理解できるようになる。
7回目	日本におけるIRの制度の詳細な点について理解できるようになる。
8回目	アメリカのカジノについて理解できるようになる。
9回目	ラスベガスのIRについて理解できるようになる。
10回目	インディアンカジノについて理解できるようになる。
11回目	マカオのIRについて理解できるようになる。
12回目	シンガポールの観光振興、依存症対策について理解できるようになる。
13回目	シンガポールのIRについて理解できるようになる。
14回目	IRにおけるノンゲーミングの重要性について理解できるようになる。
15回目	まとめ(日本版IR)
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・テスト演習10% ・グループワークにおける課題達成度。
受講生へのメッセージ	日本におけるIRは2020年代の後半より稼働することになりそうです。それは皆さんにとって大きなチャンスだと思います。自分でもアンテナをはって情報収集をしてください。

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具、参考文献は適宜指示します。

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (MICE基礎 I)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
	MICE Basic I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。大阪観光局MICE専門官、観光庁MICE推進検討委員会委員、韓国MICE産業協会諮問委員などを務める。							
【授業の学習内容】							
MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。							
【到達目標】							
MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	講義のレビュー
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験の点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (MICE基礎 II)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員
	MICE Basic II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。大阪観光局MICE専門官、観光庁MICE推進検討委員会委員、韓国MICE産業協会諮問委員などを務める。

【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪・リトルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪市中央公会堂、大阪市立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などを説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解する。
12回目	MICEの実務体験(インターンシップ) MICEトレードショー等の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 今年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Global Hospitality I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	グローバルホスピタリティ統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ) Gloval HospitalityⅡ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使っての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 日本の伝統や文化・土地などを英語で紹介できる力を身に付ける。							
授業計画・内容							
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 前期で学んだ内容を復習することができる。						
2回目	基本的な接客マナーを理解し、実践することができる。						
3回目	グローバルな人材に必要な要素を身に付け、実践することができる。						
4回目	コミュニケーション能力を身に付け、積極的にお客さまとコミュニケーションをとることができる。						
5回目	好感をもてる話し方、聴き方を身に付ける。						
6回目	英語で他己紹介をすることができる。						
7回目	日本について知る:伝統、文化、土地、習慣など						
8回目	日本の伝統、文化、土地、習慣について、英語で説明することができる。						
9回目	いろいろな国について知る:伝統、文化、習慣などを知り、日本との違いを理解する。						
10回目	世界におけるさまざまな問題や現状を理解し、グローバルな考え方を身に付ける。						
11回目	「ホスピタリティ」と「サービス」の違いを理解できる。						
12回目	ホスピタリティのある接客について、いろいろな企業のサービスを通して考える。						
13回目	ホテルやレストランにおける基本的な接客英語を学び、実践することができる。						
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り						
15回目	グローバルホスピタリティ統括						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 I) International Tourism I	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点
・

受講生へのメッセージ

国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 II) International Tourism II	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に日本各地の人気観光地を英語で説明出来る様に学習する。
 ・必須のフレーズや表現方法を覚え、自分の英語で簡単に観光地の説明を出来る様練習する

【到達目標】

・外国人に日本のお勧めの観光地光について聞かれた際の対応について、自分の英語で簡単に案内、説明が出来る様になるを目指す。
 ・必須のフレーズや表現方法を身につける

授業計画・内容

1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語) 神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別) 好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、 浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内(厳島神社、宮島、原爆ドーム)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり下調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。 レポート提出

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験50点
 ・課題レポート50点

受講生へのメッセージ

国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
 ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (サービス介助士) License of ervice support	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員、実務者経験】							
公益財団法人 日本ケアフィット共育機構にてサービス介助士資格インストラクターとして、運輸業界・宿泊業界・流通業界等多くの業界専用講座や一般講座を担当。							
【授業の学習内容】							
お客様の立場に立って考え、行動するための「ホスピタリティ・マインド」の気づきと「ノーマライゼーション」の考え方を理解する。 お客様に安全で安心できる「介助」を提供できるよう、介助の知識を身につけます。							
【到達目標】							
学校にてサービス介助士の知識を身につけたあと、サービス介助士実技教習研修に出席・受講し、サービス介助士資格の取得を目指す。							
授業計画・内容							
1回目	ガイダンス・サービス介助士とは 超高齢社会である日本の現状を知り、サービス介助士の必要性を考えることができる。 事前課題についての説明。						
2回目	ホスピタリティ・ノーマライゼーション ホスピタリティマインドを理解する。 ノーマライゼーションを知り、必要性を理解することができる。						
3回目	高齢者の理解と介助・ジェロントロジー 高齢者の身体的特徴などの理解を深め、機能低下に対する介助方法を知る。 ジェロントロジーの考え方を理解することができる。						
4回目	障がい者への理解と介助① 車いす使用者の概要と介助方法について理解する。聴覚障がい者の概要の理解と不便さを知り、コミュニケーション方法を学ぶことができる。						
5回目	障がい者への理解と介助② 視覚障害の概要を理解し、不便さを知るとともに安全な誘導方法、その他の障害について学ぶことができる。						
6回目	障がい者の自立支援 実技教習について 身体障害者補助犬法の理解とユニバーサルデザインについて知ることができる。 事前課題の復習と実技教習についての案内。						
7回目							
8回目	講習1日目 公益財団法人日本ケアフィット共育機構大阪事務所(心斎橋)での実技教習を受講し、事前授業を振り返りながら、実践を行うことができる。						
9回目							
10回目							
11回目							
12回目							
13回目	講習2日目 公益財団法人日本ケアフィット共育機構大阪事務所(心斎橋)での実技教習を受講し、事前授業と昨日の講義の総復習を行うことができる。 試験あり						
14回目							
15回目							
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・提出物(事前課題)及び準備物(受講票) 50% ・資格取得 50%						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
サービス介助士資格取得講座テキスト・事前課題問題集等 教材一式							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅰ (英会話Ⅲ) General EnglishⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

This course is designed to improve your conversation skills to an Intermediate level of English.
英語中級レベルに会話力を高めることを目的としたコースです。

【到達目標】

Students should feel comfortable and confident in discussing every day, high frequency topics.
毎日、頻度の高いトピックについて、自信を持って話し合うことができるようになります。

授業計画・内容

1回目	<input type="checkbox"/> Can greet and respond to greetings / 挨拶をして対応できる <input type="checkbox"/> Can ask and talk about nationalities / 国籍について質問したり、話したりすることができる
2回目	<input type="checkbox"/> Can ask travel information / 旅行情報を聞くことができる <input type="checkbox"/> Can give personal information / 個人情報を提供することができる
3回目	<input type="checkbox"/> Can describe and talk about travel / 旅行について説明し、話すことができる
4回目	<input type="checkbox"/> Can ask about and describe future plans / 未来の計画を聞いたり、説明したりすることができる。
5回目	<input type="checkbox"/> Can ask for directions / 道を尋ねることができる <input type="checkbox"/> Can give directions / 指示をすることができる
6回目	<input type="checkbox"/> Can ask and talk about restaurants, order from the menu ,ask for recommendations / レストランについて質問したり、話したり、メニューから注文したり、お勧めを聞いたりすることができます。
7回目	<input type="checkbox"/> Can describe features & appearance of clothes / 衣服の特徴や外観を説明できる <input type="checkbox"/> Can ask about and give prices / 値段を聞いたり、教えたりすることができる
8回目	<input type="checkbox"/> Can describe and talk about in detail where, what time they will go, what they will do / どこで、何時に、何をするのか、何をするのかを具体的に説明し、話すことができる。
9回目	<input type="checkbox"/> Can ask for help, can call emergency services, can give help in return / 助けを求めることができる、救急車を呼ぶことができる、助けることができる。
10回目	<input type="checkbox"/> Can ask can talk about where they have been / どこに行っていたかを聞くことができます
11回目	<input type="checkbox"/> Can ask, tell, talk about objects / 物について尋ねることができる、伝えることができる、それについて話すことができる
12回目	<input type="checkbox"/> Can use If I go to ...I will... / 今後の計画を説明することができる <input type="checkbox"/> Can describe future plans. / 将来の計画を表すことができる
13回目	Review of materials up to this point / 1回目から6回目までの振り返りとレビュー
14回目	Review of materials up to this point / 7回目から12回目までの振り返りとレビュー
15回目	英会話Ⅲの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は「**期末試験の点数**」で行う。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅢ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Career ProgramⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員 実務者経験】							
<p>高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。</p>							
【授業の学習内容】							
ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。							
【到達目標】							
コミュニケーション力ををあげるため、様々なワークを行いながら"自分自身"・"対話相手"を考えて対応ができるようになる。またその学びから接客対応につなげていく。							
授業計画・内容							
1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。						
2回目	【伝達ゲーム】言葉だけで伝えることの難しさを実感し、伝え方の見直しをすることができる。						
3回目	【ブレインストーミング・KJ法①】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、グループ討論を実際に行っていく。						
4回目	【ブレインストーミング・KJ法②】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、グループ討論を実際に行っていく。						
5回目	【ブレインストーミング・KJ法③】前回の振り返りを行う。ブレインストーミングとKJ法を使い、前回の技法の復習も含め、付箋の使用を無しでグループ討論を実際に行っていく。発表につなげることで、考え方は一つではないことを実感することができる。						
6回目	【聞き上手の技法】自己紹介を行い、聞き方はどうだったかをお互いに評価し合うことで、相手の受け取り方、自分の態度を改めることができる。						
7回目	【話し上手の技法】話し上手とはどのようなことをいうのか。グループワークを行い、「話し上手」の態度を探し出し、普段の自分と比べて態度を改めることができる。						
8回目	【説得上手の技法①】説得はどのように行えば気持ちよく話を受け入れられる態度となるのかを考えながらグループワークを行うことができる。						
9回目	【説得上手の技法②】前回の授業を振り返り、説得上手の姿勢で、他のグループを説得する「売り込みゲーム」を行い、どの姿勢が良かったのか検証することができる。						
10回目	【読み上手①】技法を学び、文章をうまく読む方法をつかむことができる技法を学ぶ。						
11回目	【読み上手②】技法を学んだ上で、課題を読み感想を記入する。以前の読み方とどのような変化があったか検証することができる。						
12回目	【読み上手③】課題の感想「なぜそこに惹かれたのか」を発表し合い、様々な意見があり、読む人によって感じ取り方が異なることを理解することができる。						
13回目	【自己PR①】ブレインストーミング・KJ法を振り返る。技法を使い、自己PRを考える。						
14回目	【自己PR②】自己PRを行い、相手に「自分はどんな人間なのか」をテーマを付けて発表。相手の良いところを発見することができる。「自分が努力してきたこと」について次回までに考える。						
15回目	【自己PR③】「自分が努力してきたこと」の課題について相手に発表し、良かったポイントを評価してもらい、授業の学びから自分の成長を発見することができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・最終課題評価 + ノート提出の仕上がり						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅢ) Business computing Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

20年以上大学や専門学校で情報処理の基礎教育に携わる。現在はWord・Excel・PowerPointを用いた情報処理の基礎講座と共に、統計処理(データマイニング)の講座を持つ。都市情報学 修士

【授業の学習内容】

社会人として様々な分野で必要となるビジネスメールの利活用や情報倫理の基礎知識を学ぶ。また、説得力のあるプレゼンテーションを作成するための情報検索手法やオープンソースデータの利用方法を学ぶ。

【到達目標】

- ①円滑に実務を遂行するためのビジネスマナ基礎とツールの利用方法を身に付ける
- ②情報を活用するための技術と取得した情報を適切に扱うための知識を身に付ける

授業計画・内容

1回目	授業ガイダンス
2回目	ビジネスマナー基礎 ① 丁寧語・尊敬語・謙譲語を学び適切に使用できるようになる
3回目	ビジネスマナー基礎 ② 社内文書・社外文書作成の基本ルールを理解する
4回目	ビジネスマナー基礎 ③ 社外文書作成演習(目的に応じた正しい文書を自分で組み立てる)
5回目	ビジネスメールの基礎 ① メールの定型とツールの使い方を知る(タイトル・CC・BCC・署名・ファイルの添付)
6回目	ビジネスメールの活用 ② マナーに沿ったビジネスメールが作成できるようになる
7回目	ビジネスメールの活用 ③ 事案に合わせたメールの作成と適切な返信ができるようになる
8回目	情報セキュリティ ① SNSやウイルスなどインターネット上の最近の動向知りトラブルを発生させない使い方を身に付ける
9回目	情報セキュリティ ② 会社の情報・個人の情報を守り、法令に準じた情報の取り扱い方を身に付ける
10回目	情報の検索と活用 ① 様々な検索方法を知り、必要な情報を迅速に取得できるようになる
11回目	情報の検索と活用 ② オープンソースのデータ取得ができるようになる
12回目	総合演習 ①
13回目	総合演習 ②
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	ビジネスコンピューティングⅢの総括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験 70% ・課題提出物 30%
受講生へのメッセージ	ビジネスを安全かつスムーズに遂行するために必要な授業です。 課題に取り組みながら実践的な知識とスキルを身に付けましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

IT・リテラシー
データ保存用として各自USBを持参すること

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (華道 I) flower arrangement	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
学科名	IR・MICE マネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。

【授業の学習内容】

ホテルのロビー、レストラン、部屋、化粧室等さまざまな場所にお花が飾られています。また日本人に限らず海外の宿泊者もいます。本授業では、日本の伝統文化の1つ「華道」の基本をたしなみ、その場、その場での空間を活かすことや、同じ材料でも人によって違った作品になることまた短期間で複数の花や枝の名前や季節感なども触れられるように学習していきます。

【到達目標】

華道(生け花)の基本「盛り花」を中心に、骨格作り、空間の取り方、置く(飾る)場所を考えていけていきます。器の大きさ、置く(飾る)場所、空間に合わせて、高さ全体の大きさを考えていけるように。また壺いけや水盤流儀もたしなみます。

授業計画・内容

1回目	盛り花の基本(枝):華道の説明、フラワーアレンジメントと生け花の違いについて説明。生け花の基本、盛り花ができるようになる。
2回目	盛り花の復習(枝):盛り花の基本、枝でいけるようになる。
3回目	盛り花の基本(葉):葉ものを使った盛り花ができるようになる(枝から葉ものに変えると創作作業が出ます)
4回目	壺いけの基本:盛り花の材料で、剣山ではなく壺でいけるようになる(空間の使い方を学ぶ) ※2週にわたって交代して行います。
5回目	壺いけの基本:盛り花の材料で、剣山ではなく壺でいけるようになる(空間の使い方を学ぶ) ※2週にわたって交代して行います。
6回目	盛り花の復習:骨格を作り、空間を意識し、足元、奥行きについて、置く場所によって変わる等ができるようになる。
7回目	アレンジメント:生け花との違い、空間を活かす、空間をうめるというポイントと、見る視点を更に理解できるようになる。
8回目	リース作り:生の枝を使ってクリスマスリースを作ります。枝を自分の手の力や体温や回数によってどれだけ丸くできるかなども体験できます。同じ生花でも色々な手法があることを学びます。
9回目	生け花でクリスマス:日本の伝統文化「生け花」でもクリスマスといった洋風の季節を表現することができるようになる。
10回目	正月の盛り花:正月にだけ使う、松や千両、縁起物の枝などを使って正月の生け花ができるようになる。
11回目	正月の盛り花復習:小正月まで時間があるので華材を変えて正月花ができるようになる。
12回目	水盤流儀の基本:水盤流儀の修得。基本1種類の花で1本に見えるようにいけこむ水盤でのお流儀ができるようになる。
13回目	盛り花の復習:筆記対策として華道の復習と、盛り花の復習をします(回を重ねる中で個性、センス、拘りを活かすことを学びます)
14回目	盛り花の実技を行う。
15回目	水盤流儀の復習:華材を変えて水盤流儀の修得。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・盛り花制作80%
・筆記試験20% 合計100%

受講生へのメッセージ

職場で即必要な技術の授業ではありませんが、ホテルにはさまざまな場所に花がざらられています。日本の伝統文化を体験することで、新たな感性やセンスを得ること、海外のお客様は桜や紅葉など日本の枝や花、伝統文化に興味をもたれています。卒業を前に是非、わざわざお稽古として学びに行かなくても授業内で学べます。休まず感性やセンス、技術を得ていただきたいと思います。けっして難しくありませんので安心してください。

【使用教科書・教材・参考書】

フラワー実習室にあります花器、ハサミ、剣山、壺を使います。必要に応じてプリントを配布します。

授業シラバス

科目名 (英)	サービスキル (ウォーキング I) Walking & Posture I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員_実務者経験】

大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Cs'にてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。

【授業の学習内容】

「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・所作」を学ぶ。外面と整えることは相手に対する思い遣りの気持ちを表すことであり、また見えない自分自身の心を整えるためでもあることを理解する。信頼感の与えられる人材を育てる。

【到達目標】

人前にでた際に自信を持って立ち居振る舞いが行えるよう、身だしなみを完璧に整えることができるようになる。身だしなみの中には「姿勢や歩き方・所作・表情」まで含まれることを理解しながら、360度どの角度から見られても印象の良い綺麗な立ち居振る舞いができるようになる。

授業計画・内容

1回目	講師自己紹介。学生自己紹介。なぜ「正しく立つ・歩く」「立ち居振る舞い」が大切かを「心×形の法則」と共に学び理解できるようになる。。BEFORE写真として普段の姿勢を撮影。
2回目	正しい靴の履き方・脱ぎ方・姿勢作りのポイントを理解できるようになる。ウォーキングの前に動的ストレッチを行い、歩行に必要な筋肉の使い方を理解できるようになる。
3回目	姿勢・靴の履き方・脱ぎ方の復習。ウォーキングレッスンは下半身のポイント(着地方法・歩幅・つま先の角度・足首の曲げ伸ばし、膝・ふくらはぎの筋肉の使い方・骨盤の角度・位置・大殿筋意識するなど)を1つずつ丁寧に練習しながら、頭と身体で理解できるようになる。前半の回数までは筋肉強化レッスンをを行うことで筋肉をより意識できるようになる。
4回目	
5回目	
6回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングレッスンは下半身の意識するポイントから上半身の意識するポイント(腹筋の使い方・腕の正しい振り方・首の立て方・目線の置く位置)などをつけかわて、トータル的に正しく美しい歩行ができるようになる。筋肉強化ウォーキングから通常ウォーキングへレベルアップをはかりできるようになる。
7回目	
8回目	途中経過として姿勢写真撮影を行い、折り返し時点での成長具合を確認。動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
9回目	動的ストレッチ、姿勢・靴の履き方・脱ぎ方を復習。ウォーキングは上半身の意識するポイントを比重を置きながら、トータルで正しく美しい歩行ができるようになる。 スピードアップをしてもフォームが崩れないように筋肉を使いながら歩行ができるようになる。
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	総復習を行い、苦手な点を再度練習できるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	フィードバックを行い、試験でできていた点、できていなかった点を振り返る。姿勢のAFTER写真撮影をし、綺麗に作られるようになったか確認する。そして総復習ならびにここまでの授業を終えての感想、反省点など次への目標を改めて落とし込み意識を高めることができるようになる。

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・入退室時の挨拶・お辞儀が行えているかどうか プラスα
・姿勢作り・ウォーキングのポイントを意識して正しくできているかどうか 50%(筆記試験50%)

受講生へのメッセージ
ウォーキングを習うと聞くと、モデルさんや舞台に立つ人だったり何か特別な人が習うものと感じていると思いますが、人間はみな二足歩行です。特別な人だけでなく「正しく立つ・歩く」知識や技術は皆さんも知る必要があります。私自身がそうだったように無意識にとっているその姿勢や歩き方が実はマイナスな印象にうつっていたり、身体の不調を引き起こす原因になっている可能性もあります。人前に立った際に、またどんなシーンにおいても好感の持てる人になるよう身につけていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は適時、配布
持ち物: スニーカー(紐靴)・動きやすい服装・飲み物

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅱ) Company Research II	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員							
【授業の学習内容】							
企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。							
【到達目標】							
ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。							
授業計画・内容							
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。						
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。						
3回目	【研究概要の構築】 ・1. 企画書の目的設定を行う。 ・2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。						
4回目	【研究内容の構築】 ・プランの絞り込みを行い、提案内容の実行できる方法論の策定、予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。						
5回目	【プレゼンテーション内容決定】1 ・問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。						
6回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また問題点とその解決方法を考えることができる。						
7回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考慮、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
8回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考慮、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
9回目	【プレゼンテーション資料完成】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
10回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。						
11回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・企画書の目的設定精査を行う。 ・ゲストターゲットの設定精査を行う。 ・前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。						
12回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
13回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
14回目	【プレゼンテーション最終確認】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
15回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業を聴く態度・制作する態度・チームワーク25%、企画内容評価25%						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEIC I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	TOEIC I	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限	

【担当教員_実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

TOEIC試験では単純な英語力だけでは高得点は望めません。まずは文法のおさらいをし、その後TOEICの各パートごとの傾向と対策を学ぶ。
 また、それらを踏まえた上で実際に問題をたくさん解き、より本番に近い形での演習を行う。

【到達目標】

TOEIC試験で500点を突破できるような知識を習得する。
 また、TOEICを通して中高の英文法を網羅し、あらゆる問題に対応できるようになる。

授業計画・内容

1回目	品詞について①：形容詞の働きが理解できるようになる。
2回目	品詞について②：副詞の働きが理解できるようになる。
3回目	接続詞について①：名詞節の働きが理解できるようになる。
4回目	接続詞について②：副詞節の働きが理解できるようになる。
5回目	文法演習・解説①：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目	文法演習・解説②：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
7回目	リスニング Part1・2 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
8回目	リスニング Part3・4 について：TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
9回目	長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
10回目	長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
11回目	長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
12回目	リスニング通し確認：実際の試験を想定した形式でテストを行うことで、自分の弱点が見えるようになる。
13回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
14回目	7回目～12回目までの授業の振り返り
15回目	学習内容の総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening & Reading 問題集

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (実践英会話Ⅲ) Practical English Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。							
【授業の学習内容】							
ホテル業界で必要とされる接客英会話を中心に、様々な会話例を実践的に行う。							
【到達目標】							
通常の業務レベルのホテル業界で必須となる英会話力を身に着ける。							

授業計画・内容	
1回目	現在の英語レベルをチェック
2回目	ロビーサービスの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / お出迎え
3回目	ロビーサービスの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / 客室への案内、客室設備
4回目	ロビーサービスの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / クロークサービス
5回目	フロントデスクの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / チェックイン
6回目	フロントデスクの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / アップセル、ビジネスセンター
7回目	フロントデスクの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / チェックアウト
8回目	ハウスキーピングの一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / ランドリーサービス、デリバリーサービス
9回目	料飲の一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / 食事のメニュー表現
10回目	料飲の一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / 食材やドリンクの表現
11回目	料飲の一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / 朝食、昼食
12回目	料飲の一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / 夕食
13回目	料飲の一般業務で必要とされる英会話力を身に着けることが出来る / ルームサービス
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	学習内容の総まとめ：これまでの総復習を行うことでこれから自分が取り組まないといけない課題が見えるようになる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験と実技試験
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (イングリッシュコミュニケーションⅢ) English CommunicationⅢ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

イギリスのVFX制作会社である「ダブル・ネガティブ(Double Negative)」に5年務めた後、日本へ移住。
現在は、フォトグラファーとして活動の傍ら、フリーランスの英語講師としても活躍中。

【授業の学習内容】

授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。
最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)
2回目	英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。 また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことが出来る。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	1回目～14回目までの授業の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (料飲・レストランオペレーションⅢ)	必修 選択	必須選択	年次	2	担当教員	
	Food & Beverage・Restaurant OperationⅢ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

1983宝塚ホテル、1986ヒルトン大阪、2006神戸ベイシェラトン、2010スイスホテル南海大阪、及び(株)リゾートトラストを経て、現在(株)北山貿易のホテル部門に在籍。神戸ベイシェラトンにおいてはシェラトンのブランドトレーナーをしていました。料飲部を中心に宿泊部、人事総務部など多岐にわたる職務経験を授業に生かしていきたいと考えています。

【授業の学習内容】

レストラン、バー、ラウンジおよびバンケットを中心に動作、知識を学びます。また料飲部以外の他部門のオペレーションにも言及し、料飲部がホテル組織のなかでどう位置付けがなされているのかなども学びます。レストランでのサービス動作の習得のみに終わらず企業人としての基礎的な心構えや所作をも身につける授業にしたいと考えています。

【到達目標】

FBオペレーションに携わるうえで必要な基礎知識と動きを習得する。さらにキャプテンクラスをサポートできる程度の知識の習得を目指す。

授業計画・内容

1回目	様々なレストランを含めた料飲事業について、理解を深める
2回目	ブランディング及びソーシャルスタイルとは何かを知ることができる
3回目	SWOT分析とは何かを知ることができる
4回目	プレゼンテーションスキルを身につけることができる
5回目	PL、BS など基本的な計数管理を理解することができる
6回目	ハイジーン&サニテーションなど衛生管理について知ることができる
7回目	フードプロモーションとは何かを知ることができる
8回目	コストコントロールとは何かを知ることができる
9回目	ガバナンス、コンプライアンス、ハラスメントとは何かを知ることができる
10回目	レストランオペレーションの概要を知ることができる
11回目	ビバレッジサービスの概要について知ることができる
12回目	バンケットオペレーションの概要について知ることができる
13回目	ホテルにおけるMICEについて理解を深める
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	自己評価と反省

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末の試験において実技40%、筆記60%の比率にて評価する。
・

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	宿泊オペレーション (宿泊オペレーションⅢ) Rooms Operation III	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ザ・リッツカールトン大阪オープニングスタッフからホテルマン人生を始め、在籍13年間でドアマンからベルマン、フロント、リザーベーションの全ての業務を経験、マネージメント職も経験後、スモールラグジュアリーホテルへ移り、ホテル全体の運営統括支配人を経て、現在はホテルでの副総支配人兼本社経営企画室 室長

【授業の学習内容】

宿泊部門のマネジメントの方法論、具体的な事例を挙げて解説し、マネジメントを習得するための基礎を理解させる

【到達目標】

実際のホテル現場レベルの具体例を学ぶことにより、現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事が出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 様々なカテゴリーのホテルの説明 その運営と特徴を理解することができるようになる。
2回目	宿泊部門の組織について 各セクションの特徴と役割を、更に理解することができるようになる
3回目	宿泊部門の使命と役割について 宿泊部門で働くうえでの特徴を、更に理解することができるようになる
4回目	宿泊部門の業務の流れについて 宿泊部門で働くうえでの業務の流れを、更に理解することができるようになる
5回目	宿泊部門で働く人材にこれから求められる能力と資質について 宿泊部門で働くうえで求められる能力と資質を、更に理解することができるようになる
6回目	ゲストサービス(ドアマン・ベルマン)業務の基礎や特徴について ゲストサービスの業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
7回目	フロント業務の基礎や特徴について フロントの業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
8回目	リザーベーション業務の基礎や特徴について 宿泊予約の業務の基礎や特徴を、更に理解することができるようになる
9回目	レベニューマネジメントについて レベニューマネジメントの基礎を学び、その考え方を理解することができるようになる
10回目	ホテル全体のオペレーション(運営)について ホテル運営についての基本的な考え方を理解することができるようになる
11回目	顧客満足度について いくつかの体験談を交え、ゲスト満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
12回目	従業員満足度について いくつかの体験談を交え、従業員満足度を向上させる考え方を理解することができるようになる
13回目	理想のリーダー像について 求められるリーダーの資質や考え方などを、体験談などを交え、理解することができるようになる
14回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
15回目	7回目～13回目までの授業の振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す等の取り組み態度)10%+(試験評価)40%とする。
なお、本授業における試験評価は、「筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

宿泊業務の基礎

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (MICE基礎 I)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	MICE Basic I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員_実務者経験】							
旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ出向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。大阪観光局MICE専門官、観光庁MICE推進検討委員会委員、韓国MICE産業協会諮問委員などを務める。							
【授業の学習内容】							
MICEビジネスとは何か、関連する仕事や施設も含めて総合的に学ぶ。またMICEビジネスの歴史と現状・今後の発展について学び、仕事の面白さ・楽しさを理解する。							
【到達目標】							
MICEについての概要・業務内容を理解し、MICEビジネスの成り立ちや業界における役割、今後の発展について説明できるようになる。							

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス-MICE産業とは？ 一般的には未だあまり理解されていないMICE産業についての概念を知る
2回目	Meeting(企業会議、企業イベント)ビジネスの世界 一般に知られることの少ない企業イベントについて実例を踏まえて、その業務に携わる面白さや楽しさなどについて知る。
3回目	Incentive(報奨旅行)ビジネスの世界 MICEビジネスの中でも最も知られにくいインセンティブパーティーについて、その業務の面白さや楽しさなどについて知る。
4回目	Convention(国際会議)ビジネスの世界 国際会議を運営するさまざまな関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
5回目	Exhibition(展示会)ビジネスの世界 展示会運営に携わる様々な関連産業について、その業務の面白さや楽しさについて知る。
6回目	MICE産業の歴史 世界や日本のMICE産業の歴史を成り立ちから現在に至るまでどのような過程を経てきたかを理解し、今後のMICE産業の発展について理解する。
7回目	MICE産業の現状①(世界、日本) 世界や日本におけるMICE産業の実態や現在のトレンド等について理解を深める。
8回目	MICE産業の現状②(大阪) 大阪におけるMICE産業の実態についてG20大阪サミット開催実例等を含めて理解し、今後大阪にとってのMICEビジネスの重要性について知る。
9回目	MICE産業を支える仕事①(観光庁、JNTO、コンベンションビューロー) 公的な立場でMICE産業を支える国、自治体参加の組織についてその役割や活動について知識を深める。
10回目	MICE産業を支える仕事②(PCO、PEO、イベント会社等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
11回目	MICE産業を支える仕事③(ケータリング、旅行業等) MICE事業実施にあたって最前線で実務を執り行う業務について理解を深める。
12回目	MICE産業を支える施設①(国際会議場) MICE産業とは一面装置産業であり、その中でも特に大きな役割を果たす国際会議場の役割について理解を深める。
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	国際会議場視察(国立京都国際会館) 日本最古で唯一の国立国際会議場である国立京都国際会議場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに細部を視察し理解を深める。
15回目	講義のレビュー
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・試験の点数
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (MICE基礎 II)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員
	MICE Basic II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

旅行会社勤務を経て、91年よりちば国際コンベンションビューローに勤務。99年～2000年、日本政府観光局へ外向し、国際会議のマーケティングおよびセールスを担当。大阪観光局MICE専門官、観光庁MICE推進検討委員会委員、韓国MICE産業協会諮問委員などを務める。

【授業の学習内容】

展示場・ホテル・ユニークベニュー等のMICEビジネス関連施設を実際に視察しながら、具体的な仕事内容についてイメージし、理解を深める。

【到達目標】

MICEビジネスが実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し、実務内容について説明できるようになる。

授業計画・内容

1回目	MICE産業を支える施設と仕事②(展示場) 地域の経済産業の活性化に必要な不可欠装置である展示場の役割について理解を深める。
2回目	展示場視察(インテックス大阪) 西日本最大規模の本格的展示場を訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受けるとともに展示場細部を視察し理解を深める。
3回目	MICE産業を支える施設と仕事③(ホテル) ホテルのMICE機能について知識を深め、どのようなMICEビジネスを受入れ運営するかについての理解を深める。
4回目	ホテル視察(ハイアットリージェンシー大阪・ヒルトン大阪) MICEビジネスの取り組みに実績のある外資系ホテルを訪問し、担当者から施設の概要や運営について説明を受け、ホテルにおけるMICEビジネスの理解を深める。
5回目	国際会議の作り方 国際会議が実際にどのように誘致、準備、運営されるかなどの一連の流れを把握し国際会議ビジネスについて理解を深める。
6回目	展示会の作り方 展示会がどのように企画され、実施されていくかの一連の流れを把握し展示会ビジネスについての理解を深める。
7回目	インセンティブ・イベントの作り方 MICEビジネスの中で一般ではほとんど触れることのないインセンティブ・イベントについて映像等の事例も踏まえ実態を把握し理解を深める。
8回目	国際会議におけるプロトコール 国際会議、特にハイレベル国際会議受入れに必要な不可欠なプロトコール(国際儀礼)についてG20サミットの実例などを踏まえて理解を深める。
9回目	ユニークベニューの開発と活用 ユニークベニューの概念や実際にどのように開発し活用していくか等を実例を踏まえて理解し、開発や活用に関する演習を行う。
10回目	ユニークベニュー視察(大阪府中之島公会堂、大阪府立自然史博物館) 大阪で実際に活用されているユニークベニューを訪問し、担当者から施設の概要やMICEイベントを開催する際の留意点などを説明を受け理解を深める。
11回目	MICEの統計、経済波及効果及びMICE商品の作り方 MICEビジネスの効果測定に必要な統計や経済波及効果について理解を深めるとともに経済波及効果を高めるために必要なMICE商品の作り方について理解する。
12回目	MICEの実務体験(インターンシップ) MICEトレードショー等の運営に一部携わり、展示商談会の運営を実体験する
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	IR(統合型リゾート)におけるMICEビジネス 今後の日本におけるMICEビジネスにとって重要な施設となるIR内のMICE施設に関して知識を深めるとともに、今後のビジネスへの発展性について理解を深める。
15回目	MICEビジネス概論総括 今年度の講義を振り返り理解を深めるとともに、次年度実施される海外実習でのMICEビジネス実務習得のポイントを認識する

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Global Hospitality I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	グローバルホスピタリティⅠの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
	Gloval HospitalityⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使っての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 日本の伝統や文化・土地などを英語で紹介できる力を身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 前期で学んだ内容を復習することができる。
2回目	基本的な接客マナーを理解し、実践することができる。
3回目	グローバルな人材に必要な要素を身に付け、実践することができる。
4回目	コミュニケーション能力を身に付け、積極的にお客さまとコミュニケーションをとることができる。
5回目	好感をもてる話し方、聴き方を身に付ける。
6回目	英語で他己紹介をすることができる。
7回目	日本について知る:伝統、文化、土地、習慣など
8回目	日本の伝統、文化、土地、習慣について、英語で説明することができる。
9回目	いろいろな国について知る:伝統、文化、習慣などを知り、日本との違いを理解する。
10回目	世界におけるさまざまな問題や現状を理解し、グローバルな考え方を身に付ける。
11回目	「ホスピタリティ」と「サービス」の違いを理解できる。
12回目	ホスピタリティのある接客について、いろいろな企業のサービスを通して考える。
13回目	ホテルやレストランにおける基本的な接客英語を学び、実践することができる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	グローバルホスピタリティⅡの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・BAR実習 I) Bartender Training I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

1994年奈良ホテルに入社以降、宴会食堂部(メインダイニングルーム「三笠」・バー「ザ・バー」・日本料理「花菊」、宴会、婚礼等のサービス)、宿泊部、総務部、経営企画、営業企画、ジェイアール西日本ホテル開発へ出向(ホテルグランヴィア京都にて勤務)等さまざまな業務に携わる。2013年7月、世界最大のカクテルコンペティションである「ディアジオワールドクラス2013」世界大会で「キングス・オブ・フレイバー」部門優勝、アジア・パシフィックチャンピオンを獲得し、総合世界第3位の栄誉に輝いた。現在、営業本部 宴会食堂部付課長として勤務し、「バーとカクテルの価値を高める」使命の元、国内外でアンバサダーとしてカクテル作りのワークショップや講演、オリジナルカクテルの開発などを積極的に行っている。

【授業の学習内容】

酒類全般の基礎知識とカクテルの実習。

【到達目標】

カクテルの基本調合技術(ビルド、シェイク、メジャーカップの使い方)を習得する。
カクテルを通じてホテルマンとしての身だしなみ、サービスといった基本的な仕事への取り組み方を学ぶ。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をレモンスカッシュの制作を通して、習得する
3回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をライムスカッシュの制作を通して、習得する
4回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をノンアルコール・モスコミュールの制作を通して、習得する
5回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をノンアルコール・モヒートの制作を通して、習得する
6回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をノンアルコールカクテルの制作を通して、習得する
7回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をノンアルコールカクテルの制作を通して、習得する
8回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をノンアルコールカクテルの制作を通して、習得する
9回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をノンアルコールカクテルの制作を通して、習得する
10回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をノンアルコールカクテルの制作を通して、習得する
11回目	オリジナルカクテル創作 ①～⑩までの授業を振り返りパーソナリティを反映させた作品を創作する
12回目	オリジナルカクテル創作 ①～⑩までの授業を振り返りパーソナリティを反映させた作品を創作する
13回目	オリジナルカクテル創作 ①～⑩までの授業を振り返りパーソナリティを反映させた作品を創作する
14回目	オリジナルカクテル創作 実技のみ
15回目	すべての授業内容を振り返り技術習得の確認をする。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験(オリジナルカクテル創作)」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・ソムリエ実習 I) Sommelier Training I	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ヒルトン大阪に入社し14年勤務。ラウンジ、フレンチ、中華、和食、などを渡りキャプテン、マネージャーと歴任しながらホテルのチーフソムリエとなる。現在は独立して北新地でワインバー「夢田葡萄酒店」を営んでいる。

【授業の学習内容】

ワインの基礎知識、ワインのサービス実習、テイスティングを行ない、ワインへの造詣を深める。

【到達目標】

ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本を修得していただき、ソムリエという専門職への理解を深める。

授業計画・内容

1回目	ワインの基本知識を理解することができる
2回目	ワインの製造法やブドウ品種を学ぶことができる
3回目	ワインの開け方を習得できる
4回目	スパークリングワインの開け方を習得できる
5回目	白ワインのテイスティングの方法を学ぶことができる
6回目	赤ワインのテイスティングの方法を学ぶことができる
7回目	ワインと料理のマリアージュの概念を理解することができる
8回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ボルドー編
9回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる ブルゴーニュ編
10回目	フランスワインの種類・特色を学ぶことができる シャンパーニュ編
11回目	オールドワールドの地域・特色を学ぶことができる
12回目	ニューワールドの地域・特色を学ぶことができる
13回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
14回目	7回目～12回目までの授業の振り返り
15回目	総まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験と筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話IV) General English IV	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

This course is designed to improve your conversation skills to an Advanced level of English.
英語上級レベルに会話を高めることを目的としたコースです。

【到達目標】

Students should feel comfortable and confident in discussing every day, high frequency topics.
毎日、頻度の高いトピックについて、自信を持って話し合うことができるようになります。

授業計画・内容

1回目	本授業のルールと、授業準備について解説。
2回目	仕事や学校生活についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
3回目	仕事や学校生活について、フリートークを行なうことができるようになる
4回目	毎日または毎週必ずするような日課や習慣についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
5回目	毎日または毎週必ずするような日課や習慣について、フリートークを行うことができるようになる
6回目	その日したこと・することについてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
7回目	その日したこと・することについて、時制を意識して、フリートークを行うことができるようになる
8回目	英語(学習)についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
9回目	英語(学習)について、フリートークを行うことができるようになる
10回目	話題のニュースについてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
11回目	話題のニュースについて、フリートークを行うことができるようになる
12回目	2回目から11回目の授業内容を組み合わせて、フリートークを行なうことができるようになる
13回目	2回目から11回目の授業内容を組み合わせて、フリートークを行なうことができるようになる
14回目	習熟度確認
15回目	英会話IVの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「フリートークの実技試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (英会話 V) General English V	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

This course is designed to improve your conversation skills to an Advanced level of English.
英語上級レベルに会話を高めることを目的としたコースです。

【到達目標】

Students should feel comfortable and confident in discussing every day, high frequency topics.
毎日、頻度の高いトピックについて、自信を持って話し合うことができるようになります。

授業計画・内容

1回目	前期の振り返り
2回目	趣味・好きなことについてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
3回目	趣味・好きなことについて、フリートークを行うことができるようになる
4回目	国や文化についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
5回目	国や文化について、フリートークを行うことができるようになる
6回目	住んでいる場所・地元についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
7回目	住んでいる場所・地元について、フリートークを行うことができるようになる
8回目	映画・本・音楽についてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
9回目	映画・本・音楽について、フリートークを行うことができるようになる
10回目	自分の周りの人たちについてのフリートークに、必要なボキャブラリーを身に着けることができるようになる
11回目	自分の周りの人たちについて、フリートークを行うことができるようになる
12回目	2回目から11回目の授業内容を組み合わせて、フリートークを行なうことができるようになる
13回目	2回目から11回目の授業内容を組み合わせて、フリートークを行なうことができるようになる
14回目	習熟度確認
15回目	英会話 V の統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度(授業を聴く態度、作る(制作する)態度)10% + 技術(もしくは試験・レポート等)評価40% を評価基準とする。
なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「フリートークの実技試験の点数」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンスキル (キャリアプログラムⅣ) Career ProgramⅣ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。							
【授業の学習内容】							
ワークブックとテキストを使用しながら、コミュニケーションの技法を学んでいく。事前学習⇒演習⇒グループ討論⇒振り返りの順に行い、皆が取り組むようにする。							
【到達目標】							
コミュニケーション力をあげるため、様々なワークを行いながら"自分自身"・"対話相手"を考えて対応ができるようになる。自己の見つめなおしと自己発見を行うことで、自分の強みと弱みを理解し、社会人に向けての課題を発見することができる。							

授業計画・内容	
1回目	【授業内容の説明】テキストとワークブックの使用説明、授業内容を説明し、この授業の目的を理解することができる。
2回目	【ブラインドワーク】五感を使い「ブラインドワーク」を行う。物事の伝え方をしっかりと考えて「相手に正しく伝える」ということを学ぶことができる。
3回目	【自分探しの技法①】自分史の年表の説明を行い、作成を行う。
4回目	【自分探しの技法②】自分史の作成を行う。自分史を使い、自分の過去と転機を見つめなおすことができる。また努力した事柄を発見することができる。
5回目	【インタビューの技法①】自分史を使いながら、相手に「自分らしさ」を発表する。インタビューを行い、「相手に質問する」ポイントを掴むことができる。
6回目	【インタビューの技法と他己紹介】インタビューの内容をうまくまとめ、他己紹介を行う。キャッチフレーズを付けて相手を紹介する方法を学ぶことができる。
7回目	【私とわたし①】自分がおもう自分と相手がみた自分の比較を行い、自分の新しい一面を発見することができる。
8回目	【私とわたし②】連想ゲームを行い、相手の「イメージ」と本当の相手を理解し、新しい一面を発見することができる。
9回目	【言葉ゲーム】自分の考えが相手にそのまま伝わるかどうか、ゲームを行い、その後検証することで「伝え方」の方法を見つめなおすことができる
10回目	【質問ゲーム】手持ちのカードの中で誰が違うカードを持っているかを質問しながら探り合う。相手のしぐさや反応をしっかりと見て洞察力・思考力を高めることができる。
11回目	【グループディスカッション①】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
12回目	【グループディスカッション②】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
13回目	【グループディスカッション③】今まで学んだ技法を使用し、提示された課題に対してディスカッションを行い、意見をまとめることができる。
14回目	【何年後かの自分へ】今までの学びを通し、成長した自分をイメージしながら手紙を書くことで、目指す夢を再確認することができる。
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。 ・グループディスカッション3課題の取り組み姿勢
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅤ) Career ProgramⅤ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

社会人になることで、学生時代とは異なったプレッシャーやストレスなどの壁にあたる可能性がある為、学生の間はそのリリース方法を学ぶ

【到達目標】

仕事とプライベートのバランスをとり、ストレスフリーな生活を送るための方法を理解し、身に着ける

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: アイズブレイクとブレインストーミングで、現在の「仕事とプライベートのバランスのとり方」を考える
2回目	優先順位に「やりたいこと」を入れる: やりたいこと、やらなければならないことをリストアップすることで、自身にとっての優先順位の付け方を身に付けることができる (グループワーク、個人ワーク、発表)
3回目	
4回目	時間の記録をつける: 一日の時間をどのように使っているか、細かく記録することで、どこにムダがあるのか理解して、自分の優先順位に沿った時間の使い方ができるようになる。 (個人ワーク、発表)
5回目	
6回目	「自分の時間」をスケジュールに入れる: 前回は行った一日の時間に、「自分の時間」を入れ込むことで、有意義な時間の使い方が出来るようになる(個人ワーク、発表)
7回目	家に仕事を持ち込まない: 仕事をする時間と家でくつろぐ時間をはっきり分けることの重要性を理解する。
8回目	健康に気をつける: 睡眠や、食事、運動などが身体にもたらす効果が、精神にも効果をもたらすことを理解することが出来る。 (グループワーク、個人ワーク、発表)
9回目	
10回目	家族や友だちとの時間を大切に: 大切な人と過ごす時間は疲れた心を癒す効果があることを理解することができる。 (グループワーク、発表)
11回目	
12回目	遠慮せず、助けを求め: 助けを求めることがマイナスイメージという偏見を払拭することができる
13回目	楽しみなどをつくる: 半年後や1年後だけではなく、今日、明日の楽しみを作ることが、自身の心にどのような影響を与えるのか理解する。
14回目	社会人になった自分へ向けた、スピーチ動画を制作、発表
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。(レポート提出)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。
・レポート提出

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネスコンピューティングⅣ) Business computing IV	必修 選択	必修	年次	3	担当教員
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限

【担当教員 実務者経験】

20年以上大学や専門学校で情報処理の基礎教育に携わる。現在はWord・Excel・PowerPointを用いた情報処理の基礎講座と共に、統計処理(データマイニング)の講座を持つ。都市情報学 修士

【授業の学習内容】

この授業ではビジネスコンピューティングⅠ・Ⅱで習得した知識をベースに、主にExcelを用いて①把握②分析③考察の3段階でデータ分析の実践的な手法を習得する。

【到達目標】

- ①分析に必要な情報やデータを自力で探すことができるようになる
- ②データ分析の流れに沿って解析を進めることができるようになる
- ③分析結果から考察を導き出すことができるようになる

授業計画・内容

1回目	授業概要 EXCEL関数復習
2回目	ビッグデータとオープンデータ (必要なデータを探せるようになる) ・最近のトレンド ・オープンデータの活用 ・データの探し方
3回目	論文検索法 ・国内外の文献を検索できるようになる
4回目	データ把握①【分析の流れを知る】 ・分析の流れを知り、必要なデータの準備ができるようになる
5回目	データ把握②【データ全体を見る】 ・基本統計量の算出ができるようになる
6回目	データ把握③【データの分布を見る】 ・ヒストグラムの作成ができるようになる
7回目	データ分析①【相関 2つのデータ間の関連性を調べる】 ・散布図でデータの関連性を見ることができるようになる
8回目	データ分析②【相関 2つのデータ間の関連性を調べる】 ・相関係数の算出と判断ができるようになる(アドインの設定含)
9回目	考察の導出① ・分析結果を読み取ることができるようになる
10回目	考察の導出② ・分析結果から考察を導き出すことができるようになる
11回目	演習問題 (実際問題への適用) ・自力でデータを分析し、考察を導き出す
12回目	演習問題 (実際問題への適用) ・自力でデータを分析し、考察を導き出す
13回目	予測のための分析(単回帰分析・重回帰分析)
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	ビジネスコンピューティングⅣの総括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・試験 70%
・課題提出物 30%

受講生への メッセージ

仕事に生かせる知識と技術を身につけるために一緒に頑張りましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

・データ保存用として、各自USBを持参すること

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティーマナー (社会人即戦力 I) work-ready course I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社キーエンスで西日本1位になった営業力を駆使し、希望企業から内定獲得させる「内定獲得塾」を15年間主宰している

【授業の学習内容】

企業が求める社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。昨今、企業には新入社員を育てていける余裕がなく、企業はまさに即戦力を求めている。そのための社会人即戦略講座を行う

【到達目標】

いかなる問題や課題もチャンスと捉えらえるようになるだけでなく、自ら、問題解決できるようになる。また、分かち合い、助け合う、思いやりある人材を育てる。最後に社会人になる前に営業・販売の基礎を身に付け、実践できるようになる。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション)社会人即戦力とは何か?についてグランドルールを理解できるようになる。
2回目	社会人基礎力を身につけるための考え方～安楽の欲求と充実の欲求について学び、充実感ある社会人像とは何か知る
3回目	社会人になるために自立型姿勢を学ぶことで、ピンチをチャンスにする思考を得られる
4回目	「分かち合える人財」について学ぶことで、他喜力が得られる
5回目	映画:「今を生きる」から学ぶ～カーペディエム(今を生きる)、行動力を得られる
6回目	「時流の変化」の5つの変遷を用いて、時流力を得られる
7回目	不可能を可能にする5箇条である「充実体験」ワークを行うことで、不可能を可能にする思考を得られる
8回目	不可能を可能にする5箇条である「可能思考」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
9回目	不可能を可能にする5箇条である「理想の一日」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
10回目	不可能を可能にする5箇条である「one team」について学び、不可能を可能にする思考を得られる
11回目	「営業の5ステップ」を体系的に学ぶことで、営業力が得られる
12回目	「マーケティング」について学ぶことで、戦略的思考が得られる
13回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を学ぶことで、伝達力が得られる
14回目	「伝える⇒伝わる15箇条」を活かしたプレゼンテーションを作成できるようになる
15回目	社会人になる前にどんな輝いた社会人になるかを発表し、ロールモデルを明確にする

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・「課題提出と小テストの完成度」

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティーマナー (社会人即戦力Ⅱ) work-ready courseⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

株式会社キーエンスで西日本1位になった営業力を駆使し、希望企業から内定獲得させる「内定獲得塾」を15年間主宰している

【授業の学習内容】

企業が求める社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を身につける。昨今、企業には新入社員を育てていける余裕がなく、企業はまさに即戦力を求めている。そのための社会人即戦力講座を行う

【到達目標】

いかなる問題や課題もチャンスと捉えらえるようになるだけでなく、自ら、問題解決できるようになる。また、分かち合い、助け合う、思いやりある人材を育てる。最後に社会人になる前にプレゼンテーション力・営業力・メンタリング力を身につける

授業計画・内容

1回目	続・社会人即戦力とは何か？についてグランドルールを理解(営業力、メンタリングセッション、プレゼンテーション、前期振り返りなど)
2回目	営業の5ステップの概要と、「オープニング」とは何かを学び、営業力が身につく
3回目	営業の5ステップの「オープニング」の”傾聴力”を高め、営業力が身につく
4回目	営業の5ステップの「オープニング」の”ターゲットチャーム”力を高め、営業力が身につく
5回目	営業の5ステップの「オープニング」の”マインド”を学ぶことで、営業力が身につく
6回目	営業の5ステップの「ブローピング」とは何かを学び、”問題意識を引き出す”力を高め、営業力が身につく
7回目	営業の5ステップの「ブローピング」の”もし仮にトーク”力を高め、営業力が身につく
8回目	営業の5ステップの「ブローピング」の6要素を学び、お客様のニーズを把握する力を高め、営業力が身につく
9回目	営業の5ステップの「クロージング」の”契約しない理由の10要素”の反論反証を学ぶことで、営業力が身につく
10回目	営業の5ステップの「クロージング」の”クロージング前トーク”と”間を使う”トレーニングを行うことで、営業力が身につく
11回目	メンタリングセッションについて何か学ぶことで、社会人即戦力が高まる
12回目	メンタリングセッションにおける結果発表と人をやる気にさせる6要素を学べることで、社会人即戦力が高まる
13回目	2300人を感動させた最先端プレゼンテーションを鑑賞することで、プレゼンテーションとは何かを理解し、社会人即戦力が高まる
14回目	目指すべき社会人像について学生が決意表明を行うことで、全員でモデリングが明確になり、社会人即戦力が高まる
15回目	プレゼンテーション作成を行い、自分の目指すべき社会人像を明確にする

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・「課題提出と小テストの完成度」

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (書道Ⅲ) General EnglishⅣ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

平成6年、大学卒業後、一般企業に勤めていたが、平成11年より自宅にて書道教室を開塾。平成26年より、故 江口大象 氏(書道研究 璞社 会長)に師事。令和元年、書道研究 璞社 理事に昇格。令和2年、山本 大悦 氏(書道研究 璞社 現会長)に師事。書家として活動中。

【授業の学習内容】

日本の伝統である、《書道》に触れ親しむことで、おもてなしの心と精神を養う。後期は、筆ペン、ボールペン字でのし袋、履歴書を正しく、美しく書けるようになる。

【到達目標】

筆ペンにて、のし袋などの書き方。ボールペン字で履歴書や便箋の書き方に取り組み、印刷文字に依らない《手書き》の基本を習得する。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション。自己紹介。PPにて書道についての説明。
2回目	筆ペン…名前(自身、親、兄弟、親戚、友人、知人、学校等)の練習。
3回目	筆ペン…住所(自身、学校、他等)、元号、日付けなどの練習。
4回目	筆ペン…ひらがな、カタカナ、漢数字、の練習。
5回目	筆ペン…《御祝、御礼、お見舞い、寸志、内祝、御饞別》などの練習。
6回目	筆ペン…《御霊前、御香典、御供、御仏前、》などの練習。
7回目	筆ペン…のし袋練習用紙への練習。
8回目	筆ペン…のし袋(現物)への実践書き
9回目	筆ペン…のし袋(現物)への実践書き
10回目	履歴書(実践形式:左半分)をコピー用紙に自力で記入
11回目	履歴書(実践形式:左半分)のお手本(藤原作成)を見ながら作成
12回目	履歴書(実践形式:右半分)をコピー用紙に自力で記入
13回目	履歴書(実践形式:右半分)のお手本(中村作成)を見ながら作成
14回目	習熟度確認
15回目	書道Ⅲの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
◎ 演習課題:暑中見舞いの完成度 50%
◎ 課題:封筒(表裏)と便箋の書き方の完成度 50%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	伝統文化 (茶道 I) Tea ceremony I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
曜日/時限							

【担当教員、実務者経験】

1992年～1995までグラフィックデザイナーとして主に販売促進系のデザインを行う。1996年～2010年まで専門学校関連にてグラフィックデザイナー、ディレクション等の仕事を行う。華道歴22年、個人にて華道教室を行って8年。茶道歴15年、茶道教室を行って2年。講演会や卒業式など舞台の花を生け込む仕事なども行う。

【授業の学習内容】

茶道全般にわたる基礎事項、特に・あいさつ・歩き方・立ち方、座り方、おじぎについて・お茶の飲み方・お菓子の運び方、食べ方などに ついて学びます。また日常生活において異空間の時間(実習)と感じると思います。難しいとにならないように親しみやすく行います。

【到達目標】

15回の授業では茶道の基本(知識や技能を習得)と、盆略点前が出来るようになります。茶道のお稽古を通じて、自然と礼儀作法を身に付けることや、心構え、感性を磨き、おもてなしの心を養います。

授業計画・内容

1回目	茶道の心得と基礎知識・・・注意事項、お辞儀のしかた、お菓子、抹茶のいただき方が出来るようになる。
2回目	茶道基礎知識と割稽古・・・前週の復習、道具の説明、水屋での心得、入り方が出来るようになる。
3回目	割稽古・・・前週の復習、立ち方、座り方、歩き方、袱紗さばき、茶巾のたたみ方が出来るようになる。
4回目	盆略点前・・・点てるまでの通し稽古が出来るようになる。
5回目	盆略点前・・・点てるまでの通し稽古が出来るようになる。
6回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来るようになる。
7回目	盆略点前・・・お仕舞いまでの通し稽古が出来るようになる。
8回目	盆略点前・・・一連の流れとお菓子の運び方と、お茶の出し方、ひき方が出来るようになる。
9回目	盆略点前の通し稽古が出来るようになる。
10回目	盆略点前の通し稽古が出来るようになる。
11回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
12回目	盆略点前の通し稽古・・・お茶会風
13回目	グループに分かれての通し稽古と復習
14回目	盆略点前の実技と、筆記
15回目	テーブルでの茶道方法が出来るようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価と筆記試験で40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・実技80%
・筆記20% 合計100%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

扇子、袱紗、茶巾は人数分必要です(学校内の共有物で大丈夫です)他茶道具が必要ですが教室内の共有物で対応できます。必要に応じてプリントを配布します。

授業シラバス

科目名 (英)	サービススキル (ウォーキングⅡ) Walking&PostureⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>大学卒業後 株式会社りそな銀行へ入行。この頃からO脚や身体の不調に悩まされる。その原因が無意識にとっていた自己流の姿勢や歩き方が原因と知り、「正しく立つ・歩く」ことによりO脚が改善される。一般社団法人Csにてウォーキング講師の資格を取得し、2014年に独立。多くの人に「正しく立つ・歩く」ことで起きる健康面での変化や内面の変化、そして身だしなみの中には「姿勢や歩き方」が含まれることを伝えたく様々な企業様で研修も行う。現在、教室を軸に、イベント、セミナー等で幅広く活躍中。</p>							
【授業の学習内容】							
<p>「正しい姿勢・正しい歩き方」「立ち居振る舞い・美しい所作」を学ぶ。外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。信頼感の与えられる人材を育てる。</p>							
【到達目標】							
<p>フラットウォーキングを行いつつ、ヒールウォーキングを身につける。 また様々なシーンにおいて美しくふるまう所作を具体的に練習していく。 外面を整えることは相手に対する思いやりの気持ちを持つことであり、おもてなしの心を形を表すためにあることを理解し、社会人マナーとして身につける。 信頼感の与えられる人材を育てる。</p>							

授業計画・内容	
1回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
2回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
3回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
4回目	姿勢の復習。フラットウォーキングは再度復習。ウォーキングは腕の振り方を身につけ、通常の歩行スピードでフォームが崩れないように歩くことができるようになる。
5回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンでは座り方指導。座り姿勢にこそ品格が現れることを伝え、正しい座り姿勢から立ち方まで一連の流れを美しくできるようにする。(就職活動に活かせるよう実践を交える)手しぐさの法則は女子学生のみ。ものの丁寧な扱い方(カバンの持ち方・傘の持ち方など)を仕草一つで表現できるようになる。
6回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはコミュニケーションに欠かせない「素敵な笑顔の作り方」をできるようにする。笑顔のもたらす効果・笑顔の種類・顔の主な筋肉の説明・表情筋トレーニングを行いできるようにする。(手鏡ご持参ください。)
7回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンではヒールでのスマートな階段の昇り降りのポイントやコツ、並びに物のひろい方、書類の渡し方・受け取り方など日常シーンでの仕草を綺麗にできるようにする。
8回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。疲れにくいヒール選び(試着のポイント・デザイン選び)並びにシーン別(仕事・パーティー、カジュアル等)脚が綺麗に見えるヒールの高さ選びの数式を学びできるようにする。
9回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。所作レッスンはスマートにコートやジャケットを脱ぎ着できるようにする。(企業訪問したシーンにおいてのマナーを理解してできるようにする。)
10回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。基本的なお辞儀に加え、印象に残るお辞儀ができるようになる。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
11回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
12回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
13回目	姿勢の復習。男子学生はフラットウォーキングは引き続き練習し、女子学生はフラットウォーキングーヒールウォーキングレッスンへ。ヒールウォーキングの意識するポイントができるようになる。(着地方法・歩幅・膝を伸ばして歩くコツ。)ヒールの筋肉強化ウォーキングから通常のヒールウォーキングレッスンを行いできるようにする。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	ウォーキングⅡの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・姿勢・ヒールウォーキング 60点 ・ジャケットの脱ぎ方たため方 40点
受講生へのメッセージ	就職活動で必要不可欠なヒールウォーキングを行っていきます。ヒールウォーキングが綺麗にできるようになれば、女性としてワンランク上の振る舞いのでき自信のある立ち居振る舞いができるようになります。引き続き動的ストレッチを行いつつ、免疫力もあげ「自分に厳しく楽しく」学びましょう。
【使用教科書・教材・参考書】	
配布したテキスト	

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅲ) Company Research Ⅲ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員</p>							
【授業の学習内容】							
<p>企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p>ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。</p>							
授業計画・内容							
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。						
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。						
3回目	【研究概要の構築】 ・1. 企画書の目的設定を行う。 ・2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。						
4回目	【研究内容の構築】 ・プランの絞り込みを行い、提案内容の実行できる方法論の策定、予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。						
5回目	【プレゼンテーション内容決定】1 ・問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。						
6回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また問題点とその解決方法を考えることができる。						
7回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考慮、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
8回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算を考慮、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
9回目	【プレゼンテーション資料完成】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
10回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。						
11回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・企画書の目的設定精査を行う。 ・ゲストターゲットの設定精査を行う。 ・前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。						
12回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
13回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
14回目	【プレゼンテーション最終確認】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
15回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業を聴く態度・制作する態度・チームワーク25%、企画内容評価25%						
受講生へのメッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅡ) TOEICⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

リスニング・長文対策を行う。
 同時に各パートの傾向を掴み、本番でも緊張せずに臨めるだけの知識を身に付ける。
 また、毎週単語テストを実施して語彙力の増加にも力を入れる。

【到達目標】

TOEIC試験で500点を狙える実力をつけられるようになる。
 また、就職してから必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。

授業計画・内容

1回目	リスニング Part 1・2 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目	リスニング Part3・4 : TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
3回目	リーディング Part6 ① : 前期に習ったことを踏まえて少し長い文章でも文意を捉えることができるようになる。
4回目	リーディング Part6 ②・Part7 ① : たくさんの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
5回目	リーディング Part7 ② : Part7の解き方を習得することで、長文に対する苦手意識を克服できるようになる。
6回目	リーディング Part7 ③ : 単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
7回目	リーディング Part5 ① : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
8回目	リーディング Part5 ② : 今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
9回目	1回目～8回目の習熟度確認を行うことで、自分の弱点が分かるようになる。
10回目	長文読解 : スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
11回目	長文読解 : スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目	長文読解 : 前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
13回目	10回目～12回目の習熟度確認を行うことで、自分の弱点が分かるようになる。
14回目	総復習 : これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。
15回目	TOEICⅡの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening & Reading 問題集

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (TOEICⅢ) TOEICⅢ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

2014年～2017年まで、寝屋川市内の公立中学校にて英語科常勤講師として勤務。
 2017年～2018年まで、ワーキングホリデービザにて、オーストラリアでバナナファームや日本食レストランにて勤務。
 2019年よりフリーランスに転身し、現在は英語コンサルタント兼コーチとして活動。
 主なクライアントとしては、短期間(3～6ヶ月)で英語学習方法をマスターしたい英語初心者となる。

【授業の学習内容】

TOEIC全体を通しての演習を行ない、本番の検定に備えて、強化していく。

【到達目標】

TOEIC試験で500点を狙える実力をつけるようになる。
 また、就職してからも必要になるTOEICの勉強に備えて、自ら学ぶ方法を会得できるようになる。

授業計画・内容

1回目	TOEICのリスニングの傾向を掴むことで、効率よく解くことができるようになる。
2回目	長い文章でも文意を捉えることができるようになる。また多くの文章に触れることで、様々な形式の文章に対応できるようになる。
3回目	長文に対する苦手意識を克服できるようになる。また単語力に頼らなくても文意を捉えることができるようになる。
4回目	今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
5回目	今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
6回目	1回目～6回目までの習熟度確認
7回目	品詞について：形容詞、副詞の働きを復習。
8回目	接続詞について：名詞節の働き、副詞節の働きを復習。
9回目	文法演習・解説：今まで習ったことを活用し、文法の知識を実践問題で使えるようになる。
10回目	長文読解：スラッシュリーディングのコツが掴めるようになる。
11回目	長文読解：スラッシュリーディングを応用して長い文章でも内容をつかめるようになる。
12回目	長文読解：前の2回で身につけた力を使うことで、設問に対して正しい答えを導くことができるようになる。
13回目	リスニングの習熟度確認を行うことで、自分の弱点が分かるようになる。
14回目	7回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	総復習：これまでの総復習をすることでこれからの自分の課題を見つけることができるようになる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験(100点満点)を実施し、40%計算を行う。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

公式TOEIC Listening & Reading 問題集

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (ビジネス英会話Ⅰ) Business English conversation I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。							
【授業の学習内容】							
このコースでは、海外研修に行った際や、卒業後の学生の専門分野で使用できる英語でのコミュニケーションスキルの習得をする。							
【到達目標】							
顧客のニーズを把握し、職場でのスタッフとのコミュニケーションをとれるようにする。 より一般的なレベルでは、外国の文化や国際的なコミュニケーションについての学生の興味と自信を持つことを目的とする。							
授業計画・内容							
1回目	【イントロダクション】自己紹介を英語を使って行います。						
2回目	【Unit 10, pp. 60 - 65】方向、勧誘について英会話で学びます。場面をイメージしながらロールプレイングを行いながら、会話を学ぶことができます。						
3回目							
4回目	【Unit 7, pp. 42-46】会社、経歴について英会話で学びます。場面をイメージしながらロールプレイングを行いながら、会話を学ぶことができます。						
5回目							
6回目	【Unit 11 pp. 66 -71】エンターテインメントについて英会話で学びます。場面をイメージしながらロールプレイングを行いながら、会話を学ぶことができます。						
7回目							
8回目	【Unit 4, pp. 22-27】ビジネス活動、日課について英会話で学びます。場面をイメージしながらロールプレイングを行いながら、会話を学ぶことができます。						
9回目							
10回目	【復習】1～9回目の授業の振り返りを行い、今まで学んだ英会話を思い出しながら再確認することができます。						
11回目	【Unit 12 pp. 72 - 77】別れの挨拶について英会話で学びます。場面をイメージしながらロールプレイングを行いながら、会話を学ぶことができます。						
12回目							
13回目	ビジネス英会話Ⅰの習熟度確認						
14回目	全授業の振り返りを行い、更にビジネス英会話に対して自信をもつことができるよう再確認を行います。						
15回目	ビジネス英会話Ⅰの統括						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
First Class Service text 1 & 2							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅲ (ビジネス英会話Ⅱ) Business English conversation II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。

【授業の学習内容】

口頭および書面によるコミュニケーションのためのビジネス英語の使い方を学びます。ビデオ、オンライン・タスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。

【到達目標】

ビジネス英語のスキルを身に付けることです。ビジネスで使用する英会話・英語を理解し、書面によるビジネス情報を提供できるようになることが目標です。

授業計画・内容

1回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Introductions and greetings
2回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 FOREX
3回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Email skills / Templates 1
4回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Business Travel
5回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Payments
6回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Purchasing
7回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 IT 1
8回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Advertising
9回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 IT 2
10回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Advertising
11回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Email skills / Templates 2
12回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 Resume Production / Interviewing
13回目	ビジネスで使用する英語ならびに、英会話を身に着けることができる。 最終レビュー
14回目	ビジネス英会話Ⅱの習熟度確認
15回目	振り返り Connections

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「ライティング、スピーキング、リスニング、リーディングテスト」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・ベーシック I) Core Management Basic I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートルロジ®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持っている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション) 自分分析のための気質診断テストを実施。コアマネジメントとは何かを説明し、学ぶ意義を理解する
2回目	(アウトカムの設定) 目標の作り方と、目標を設定することで脳が働くということを理解し、目標設定をする
3回目	(観察技法①コミュニケーションの流れ、キャリブレーション) 実際のコミュニケーションと流れ、自分と相手を観察する方法を理解する
4回目	(観察技法②ラポール、モデリング) 信頼関係を築く具体的なスキルを理解する
5回目	(観察技法③表象系システム、視線解析) 脳の記憶と発信のメカニズム、目の動きからわかる思考パターンを理解する
6回目	(フォートルロジ①) 自分の行動形態を知る
7回目	(フォートルロジ②) 自分の弱点を改善する
8回目	(フォートルロジ③) タイプ別のマッチング、コミュニケーションのとりやすさを理解する
9回目	(フォートルロジ④) 総合復習をしてフォートルロジの理解を深める
10回目	(サブモダリティ) 物の見方、捉え方を変化させるスキルを理解する
11回目	(リフレーミング) 視点を変えることで物事の捉え方を変化させるスキルを理解する
12回目	(アンカリング) 条件付けられた反応や思い込みを理解し、活用するスキルを理解する
13回目	(前期復習①) 夏休みの課題の確認。目標設定の意義、コミュニケーションの流れを復習して理解を深める
14回目	(前期復習②) ラポール、モデリングを復習して理解を深め、実践しながらスキルを体得する
15回目	(前期復習③) 表象系システム、サブモダリティ、リフレーミング、アンカリングを復習して理解を含め、実践しながらスキルを体得する
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ◎制作課題の提出率および完成度100%
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントベーシック)

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・ベーシックⅡ) Core Management Basic II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートルोजー®」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。この授業を通して、社会人として必須となるコミュニケーションスキルを学ぶ。

【到達目標】

1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持っている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。

授業計画・内容

1回目	(前期復習) 前期内容について理解度を把握するための確認テスト実施、解答および解説により、理解を深める
2回目	(チャンクアップ・チャンクダウン) 抽象化と詳細化の物の見方や考え方を理解する
3回目	(効果的質問) オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンの違いを理解する
4回目	(タイムライン&ポジションチェンジ) 現在・過去・未来の時間の観念を理解する。相手を良く理解する為のポジショニングを理解する。
5回目	(フォートルोजー復習) 気質別の接客対応の事例から理解を深める
6回目	(ポジション、メタモデル①) 省略された言語を正しい内容に置き換えるスキルを理解する
7回目	(メタモデル②) 一般化された内容を読み取るスキルを理解する
8回目	(メタモデル③) 歪曲された内容を読み取るスキルを理解する
9回目	(プレゼンテーションの組立) 自分ヒストリーを振り返り、さらに自分のことを理解する
10回目	(課題確認・復習) 冬休み課題確認と復習をし理解度を確認する
11回目	(フォートルोजー) 気質別のクレーム対応を理解し、実生活で活用できるようになる
12回目	前期、後期の授業内容復習
13回目	(夢の大作戦) 現在から未来への未来予想図を作る①
14回目	(夢の大作戦) 現在から未来への未来予想図を作る②
15回目	(宝地図) 未来の宝地図を作成し、自分の望む未来を明確化する

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・テスト演習80%
・制作課題の提出率および完成度20%

受講生へのメッセージ

コアマネジメントを学ぶことで、どうしてこのような行動をするのか、どうしてこのような感情になるのか、自分のことや相手のことがわかるようになり、コミュニケーションがしやすくなります。社会に出ると様々な年代、様々なタイプの人と関わることになり、コミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

一般社団法人国際ライセンスマネジメント機構(コアマネジメントベーシック)

授業シラバス

科目名 (英)	ホテル概論・演習 I (ホテル基礎 II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Hotel Basic II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICE マネジメント科					曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

1981年4月神戸ポートピアホテル入社。フレンチレストランをはじめ、宴会サービス、レストランマネージャー、VIPアテンドなど携わる。1992年4月トラジャル旅行ホテル専門学校入社。ホテル学科長、キャリアサポート、プライダル学科設立など経験する。ホテル学科だけで3000名の卒業生を輩出する。2004年9月関西唯一のホテル専門の教育・人材会社、株式会社ホテリエスタッフ設立。関西のホテル業界を中心に教育と人材の供給に努めている。

【授業の学習内容】

最新のホテル業界の状況を、まずは関西から関東、リゾート、海外へと幅広く検証していく。そして、現在ホテル業界を取り巻く諸問題や課題をグループを組み各自で調査検証を行い、グループごとに発表し、ホテル業界の課題に取り組む。最終的には、ホテル業界の課題を正しく把握できるようになる。

【到達目標】

現在のホテル業界の状況を正しく把握し、課題・問題点など検証し、将来のホテル業界の進むべく方向を個々で正しく考えられるようになる。また、将来、ホテル業界で仕事をするうえで自身のやりたいことや課題が分かるようになることを目標とする。

授業計画・内容

1回目	初回は授業の概要と目標をしっかりと正しく把握して前向きに授業に望む気持ちを高める。
2回目	日本の最近の観光業界及びホテル業界の状況を正しく理解できるようになる。
3回目	関西のホテル業界の状況及び内情を正しく理解することができるようになる。
4回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 1
5回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証し、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 1
6回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 2
7回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証し、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 2
8回目	現在のホテル業界のマネジメントを自分で考え実行できるようになる。①
9回目	現在のホテル業界のマネジメントを自分で考え実行できるようになる。②
10回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 3
11回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証し、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 3
12回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証し、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 4
13回目	ホテル業界の問題点や課題をグループで検証し、将来のホテル業界の方向を正しく把握できるようになる。課題 4
14回目	グループごとの調査結果の報告
15回目	最終のまとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・各グループでの検証、分析、調査の内容を評価とする
・最終レポートの完成度の評価とする

受講生へのメッセージ

将来のホテル業界での活動に向けてのホテル業界の様々な情報をまずは得てから、現状の問題点や課題を見つけ、グループで検証し分析していきます。自身の興味のあるホテルの課題を徹底的に調べることもできます。将来のホテル業界で活躍するときに必ず役立ちますので、真剣に取り組んでいただくことを期待しています。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	リゾート・ホテルオペレーション (ホテルマネジメント I)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Hotel Management I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドホテルコンクール第5位。
現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サーヴィス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	ホテルマネジメントの基本原則① 1. 科目の概要、目標解説。 2. ホテル分類を理解できるようになる。
2回目	ホテルマネジメントの基本原則② 1. 経営マネジメント 4. 運営マネジメントを理解できるようになる。
3回目	ホテルの経営形態① 1. ホテルにおける所有・経営・運営 2. ホテルのアセットマネジメントを理解できるようになる。
4回目	ホテルの経営形態② 1. ホテルの経営方式を理解できるようになる。
5回目	世界のホテルビジネス① 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
6回目	世界のホテルビジネス② 1. ホテルカテゴリー 2. ホテルビジネスのトレンド(世界・日本)を理解できるようになる。
7回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴① 1. オペレーションシステムとサーヴィス 2. ホテルブランドの確立と戦略を理解できるようになる。
8回目	外資系ホテルと日系ホテルの特徴② 1. レベニューマネジメントを理解できるようになる。
9回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
10回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
11回目	ホテルの情報システム 1. 宿泊部門の情報システム 2. 料飲部門の情報システム 3. 管理部門の情報システムを理解できるようになる。
12回目	ホテルの会計基準 1. ホテルの会計基準の特徴 2. ホテル業の収益会計と費用会計 3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。
13回目	ヒューマン・リソース・マネジメントを理解できるようになる。
14回目	習熟度確認
15回目	ホテルマネジメント I の統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す等の取り組み態度)10% + (試験評価)40% とする。 なお、本授業においての試験評価は、「筆記試験」とする。
受講生へのメッセージ	

【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。
参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。

授業シラバス

科目名 (英)	リゾート・ホテルオペレーション (ホテルマネジメントⅡ) Hotel Management II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

ウェスティン大阪レストランMGR及びフロントMGR、客船飛鳥F&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。
現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートル・ド・テル連盟 副会長、メートル・ド・セルヴィスの会 幹事、国際メートル・ド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュパティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGB後援サーヴィスコンクール日本大会(メートル・ド・セルヴィス杯) 審査員

【授業の学習内容】

ホテル全体のマネジメント、部門別(オペレーション部門、サポート部門)のマネジメントの方法論、ホテルビジネストレンドをホテル現場での具体的な事例を挙げて解説する。

【到達目標】

ロジックを持った実際のホテルマネジメントを学ぶことにより、ホテルビジネスの様々な方法論、マーケティング論と現場での効果的な運営、経営方法、目的を理解して、現場での一つ一つの作業、サービス、オペレーションの意味を理解する事ができるようになる。

授業計画・内容

1回目	ホテルの収益構造① 1. ホテルの売上げ構成比率 2. 部門別収益構造の違いを理解できるようになる。
2回目	ホテルの収益構造② 1. GOPを理解できるようになる。
3回目	部門別マネジメント(Rooms Division): 1. KIPと計数管理 2. 客室稼働率 3. ADR 4. Rev PAR 5. Double Occupancy 6. Room Rate 7. Revenue Managementを理解できるようになる。
4回目	部門別マネジメント(Food & Beverage): 1. 料飲部門の収益構造と特徴 2. レストランにおけるKPI 3. Revenue Managementを理解できる様になる。
5回目	部門別マネジメント(Banquet Service): 1. 一般宴会部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 2. ウェディング部門の利益率と特徴(Profit & Loss) 3. ホテルのプライダル戦略を理解できるようになる。
6回目	部門別マネジメント(Sales & Marketing): 1. マーケティング 2. セールス 3. 営業推進部門を理解できるようになる。
7回目	部門別マネジメント(Human Resources): 1. 人材マネジメント(外資系ホテルと日系ホテルとの違い) 2. トレーニングシステムが理解できるようになる。
8回目	ホテルの会計基準① 1. ホテルの会計基準の特徴 2. ホテル業の収益会計と費用会計を理解できるようになる。
9回目	ホテルの会計基準② 3. ユニフォーム・システムを理解できるようになる。
10回目	ヒューマン・リソース・マネジメントを理解できるようになる。
11回目	リスクマネジメント(危機管理)① 1. 防火管理を理解できるようになる。
12回目	リスクマネジメント(危機管理)② 2. 事故管理 3. 防犯管理(盗難犯罪の防止) 4. UG。暴力団への対応 5. 遺失物管理を理解できるようになる。
13回目	ホテル総支配人の役割 1. ホテル部門の配置 2. 総支配人の仕事 3. 外資系・日系ホテル組織の相違点 4. 小規模ホテルと旅館
14回目	習熟度確認
15回目	ホテルマネジメントⅡの統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す等の取り組み態度)10%+(試験評価)40%とする。
なお、本授業においての試験評価は、「筆記試験」とする。

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

毎回のテーマについて、講師がレジュメを準備する。
参考書籍: ホテルマネジメント、ホテル・ビジネス・ブック、観光庁統計資料等。

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (イベントプランニング I) Event planning I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。
大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、
そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ① 企画書とは…／ ② 公演概要を理解する
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ③ 制作スケジュールを理解する
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
6回目	プレゼンテーション
7回目	プレゼンテーションのフィードバック イベント制作の流れを理解する (打ち合わせ／準備物／下見とは)
8回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルについて理解する
9回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールを作成が出来るようになる
10回目	実施に向けて準備進行
11回目	実施に向けて準備進行
12回目	(イベントを終えて)反省会～報告書の作成が出来るようになる
13回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解する
14回目	【イベント制作の基礎知識】 集客するとは
15回目	振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・グループワークへの取り組み方
・プレゼンテーションへの取り組み方
・イベント当日への取り組み方

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (イベントプランニング II)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Event planning II	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科				2	曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。
大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

企画立案力・企画書作成・プレゼンテーション力、そしてイベント制作・運営を行う為の知識を身に付けて頂くべく講義を中心に行います。
そして、グループワークの中でのコミュニケーション力・役割分担・情報共有の大切さを育みます。
イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントをゼロから企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案の流れを理解する／企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる / グループワーク ①
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる / グループワーク ②
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する / グループワーク ③
6回目	プレゼンテーションへ向けて準備進行 / グループワーク ④
7回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
8回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
9回目	プレゼンテーション
10回目	【イベント制作の基礎知識】 制作スケジュールの重要性を理解し、制作スケジュールを作成出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ①
11回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ②
12回目	【イベント制作の基礎知識】 イベント制作の流れを理解する / 実施に向けて準備進行 ③
13回目	習熟度確認
14回目	【イベント制作の基礎知識】 反省会～報告書の作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ④
15回目	振り返り / 実施に向けて準備進行 ⑤

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。

- ・ペーパー試験実施
- ・プレゼンテーションへの取り組み方
- ・グループワークへの取り組み方

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Gloval Hospitality I	必修 選択	必須選択	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。

【授業の学習内容】

訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。

【到達目標】

訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。
また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。

授業計画・内容

1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
15回目	7回目～12回目までの授業の振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
・期末試験の点数

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
	Gloval HospitalityⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 日本の伝統や文化・土地などを英語で紹介できる力を身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 前期で学んだ内容を復習することができる。
2回目	基本的な接客マナーを理解し、実践することができる。
3回目	グローバルな人材に必要な要素を身に付け、実践することができる。
4回目	コミュニケーション能力を身に付け、積極的にお客さまとコミュニケーションをとることができる。
5回目	好感をもてる話し方、聴き方を身に付ける。
6回目	英語で他己紹介をすることができる。
7回目	日本について知る:伝統、文化、土地、習慣など
8回目	日本の伝統、文化、土地、習慣について、英語で説明することができる。
9回目	いろいろな国について知る:伝統、文化、習慣などを知り、日本との違いを理解する。
10回目	世界におけるさまざまな問題や現状を理解し、グローバルな考え方を身に付ける。
11回目	「ホスピタリティ」と「サービス」の違いを理解できる。
12回目	ホスピタリティのある接客について、いろいろな企業のサービスを通して考える。
13回目	ホテルやレストランにおける基本的な接客英語を学び、実践することができる。
14回目	1回目～6回目までの授業の振り返り
15回目	7回目～12回目までの授業の振り返り
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ブライダル・ビジネス (セルフメイク I) Self Make-up	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

2013年 スタジオパキラ入社 ブライダルヘアメイク アシスタントを開始
 2015年 フリーランスとして活躍。
 ブライダルヘアメイクを中心に、企業広告、ファッションショー、sns用ヘアメイク、婚活メイクセミナーなどを行っています。

【授業の学習内容】

パーソナルカラー、セルフメイク、ヘアアレンジ。TPOに合ったメイクの基礎を学習する。

【到達目標】

パーソナルカラーを理解し、メイクアップ基礎を身につけ、自分に自信をもって、社会生活のスタートを迎えることができるようになる。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション) 自分のメイク道具、普段のメイクを確認。持ち物→自分の普段使っているメイク道具、自分の顔撮影。
2回目	(パーソナルカラー) パーソナルカラー、カラータイプ診断。自分に合うメイク道具を選べるようになる。コンプレックス診断し、改善策を見つける。
3回目	(眉の書き方)アイブローパターン
4回目	キュート、ビューティ、クール、基礎を学び自分に合った眉が描けるようになる。
5回目	(ベースメイク・アイブロー)
6回目	ベーシックな肌作りができるようになる。なりたい肌作りができるようになる。
7回目	(チーク・リップ)
8回目	パーソナルカラー、好きなタイプに基づき、自分に合ったチークカラー、リップカラーを選び。チーク、リップを正しく入れることができるようになる。
9回目	(フルメイク)
10回目	フルメイク技術、チェック、アドバイス / ヘアセット基礎講習スタート : 似合わせ、正しいアイロン、コテの使い方を知ることができる。
11回目	(フルメイク)
12回目	フルメイク : チェック、アドバイス。簡単なヘアアレンジができるようになる。
13回目	(フルメイク) フルメイク、ベース、チーク、、アイブロー、リップに合わせヘアアレンジができるようになる
14回目	(フルメイク) フルメイク、ヘアアレンジ、トータル技術チェック、アイブロー、リップ、ベース、チーク、コンプレックス改善点確認
15回目	(フルメイク) トレンド、やってみたいメイク、ヘアアレンジ講習と撮影

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、
 ・「フルメイクの技術」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 I) International Tourism I	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	習熟度確認
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点
・

受講生へのメッセージ
国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 II) International Tourism II	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に日本各地の人気観光地を英語で説明出来る様に学習する。
 ・必須のフレーズや表現方法を覚え、自分の英語で簡単に観光地の説明を出来る様練習する

【到達目標】

・外国人に日本のお勧めの観光地光について聞かれた際の対応について、自分の英語で簡単に案内、説明が出来る様になるを目指す。
 ・必須のフレーズや表現方法を身につける

授業計画・内容

1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語) 神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別) 好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内(厳島神社、宮島、原爆ドーム)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり下調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。レポート提出

評価基準
 A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験50点
 ・課題レポート50点

受講生へのメッセージ
 国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
 ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (手話Ⅰ) Sign LanguageⅠ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。							
【授業の学習内容】							
聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。							
【到達目標】							
職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようにする。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目	接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。指文字を学ぶ(清音)。
3回目	日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や渡航費、予約日や時間を表現できるようにする。指文字を学ぶ(清音)。
4回目	七條会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。指文字を学ぶ(濁音・半濁音など)。
5回目	仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。指文字を15回目までに読み取れるようにする。
6回目	趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。指文字の復習。
7回目	疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。指文字の復習。
8回目	動詞を学ぶ。フロントでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
9回目	楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。指文字の復習。
10回目	テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。カウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。指文字の復習。
11回目	聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目	前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目	朝食や夕食、機内食などで使う食べ物の手話を学ぶ。
14回目	模擬試験と1～13回の講義の内容を駆使し、講師からの手話の質問に答える。
15回目	まとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について
評価基準	まとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について
評価方法	出席評価 50% + 授業態度評価 (聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価 (もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級	

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (手話Ⅱ) Sign LanguageⅡ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期の復習 接客手話の確認
2回目	乗り物の手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目	生活の手話を学ぶ。接客で使用する筆談について学ぶ。
4回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目	施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目	施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目	これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目	都道府県や地名の手話を学ぶことができる。
10回目	都道府県や地名の手話を学ぶことができる。
11回目	動詞の手話を学ぶことができる。単語の量を増やし、会話実践を行うことができる①
12回目	動詞の手話を学ぶことができる。単語の量を増やし、会話実践を行うことができる②
13回目	手話技能検定模擬試験を行う。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	手話Ⅱの統括

評価基準 まとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について

評価方法 **出席評価50% + 授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10%+ **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点
 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点
 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・BAR実習Ⅱ) Bartender Training Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員 実務者経験】

1994年奈良ホテルに入社以降、宴会食堂部(メインダイニングルーム「三笠」・バー「ザ・バー」・日本料理「花菊」、宴会、婚礼等のサービス)、宿泊部、総務部、経営企画、営業企画、ジェイアール西日本ホテル開発へ出向(ホテルグランヴィア京都にて勤務)等さまざまな業務に携わる。2013年7月、世界最大のカクテルコンペティションである「ディアジオワールドクラス2013」世界大会で「キングス・オブ・フレイバー」部門優勝、アジア・パシフィックチャンピオンを獲得し、総合世界第3位の栄誉に輝いた。現在、営業本部 宴会食堂部付課長として勤務し、「バーとカクテルの価値を高める」使命の元、国内外でアンバサダーとしてカクテル作りのワークショップや講演、オリジナルカクテルの開発などを積極的に行っている。

【授業の学習内容】

酒類全般の基礎知識とカクテルの実習。

【到達目標】

カクテルの基本調合技術(ビルド、シェイク、メジャーカップの使い方)を習得する。
カクテルを通じてホテルマンとしての身だしなみ、サービスといった基本的な仕事への取り組み方を学ぶ。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をハイボール、ハイボールをアレンジしたカクテルの制作を通して、習得する
3回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をジントニック、モスコミュールの制作を通して、習得する
4回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をレモンサワー、グレープフルーツサワーの制作を通して、習得する
5回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)をパロマ、ソルティードックの制作を通して、習得する
6回目	カクテル調合技術(ビルド パースプーン、メジャーカップの使い方)を水割り、ティフィンカクテルの制作を通して、習得する
7回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をダイキリ、ダイキリをアレンジしたカクテルの制作を通して、習得する
8回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をトミーズマルガリータ、パインアップルカクテルの制作を通して、習得する
9回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をグラスホッパー、アレキサンダーの制作を通して、習得する
10回目	カクテル調合技術(シェイク カクテルシェーカー、メジャーカップの使い方)をマティーニ、マンハッタン制作を通して、習得する
11回目	習熟度確認 創作カクテルの制作
12回目	習熟度確認 創作カクテルの制作
13回目	習熟度確認 創作カクテルの制作
14回目	振り返り
15回目	まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験(創作カクテル)」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	料飲解説 (料飲解説・ソムリエ実習Ⅱ) Sommelier Training Ⅱ	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ヒルトン大阪に入社し14年勤務。ラウンジ、フレンチ、中華、和食、などを渡りキャプテン、マネージャーと歴任しながらホテルのチーフソムリエとなる。現在は独立して北新地でワインバー「茅田葡萄酒店」を営んでいる。

【授業の学習内容】

ワインの基礎知識、ワインのサービス実習、テイastingを行ない、ワインへの造詣を深める。

【到達目標】

ホテルマン、サービスマンとして最低限知っておかないといけないワインの基礎知識とワインサービスの基本を修得していただき、ソムリエという専門職への理解を深める。

授業計画・内容

1回目	フランスワインのテイasting、種類・特色を学ぶことができる ボルドー編
2回目	フランスワインのテイasting、種類・特色を学ぶことができる ブルゴーニュ編
3回目	ワインの開け方を習得できる Part 1
4回目	フランスワインのテイasting、種類・特色を学ぶことができる シャンパーニュ編
5回目	ワインの開け方を習得できる Part 2
6回目	オールドワールドのテイasting、地域・特色を学ぶことができる イタリア編
7回目	オールドワールドのテイasting、地域・特色を学ぶことができる ドイツ編
8回目	ニューワールドのテイasting、地域・特色を学ぶことができる カリフォルニア編
9回目	ニューワールドのテイasting、地域・特色を学ぶことができる
10回目	お客様にワインのサービスができるようになる
11回目	ワインリストの作成ができるようになる
12回目	ワインのアップセリングができるようになる
13回目	後期の授業を復習し理解できるようになる。
14回目	習熟度確認
15回目	総まとめ

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「実技試験と筆記試験」とする。

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	外国語 I (実践英会話 VI) Practical English VI	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
エディンバラビジネススクール(MBA)卒業後、シェラトンホテル、マリオットホテル、ウォルトディズニーワールドホテルでの勤務を経験。現在は滋慶学園のグループ各校で英語教育に携わる。							
【授業の学習内容】							
授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。 最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
【到達目標】							
このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(授業の進め方、課題提出方法、自己紹介、他己紹介)
2回目	<p>英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことが出来る。</p> <p>【課題提出方法】 課題提出日までに、各テーマに沿った、課題用フォーマットを使用して、100単語以上のエッセイをメール添付にて、提出する。</p> <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全学生のエッセイを全員に配布。 ② 各学生個人にて、エッセイの内容を読み、理解(和訳)する。 ③ 各学生によるプレゼンテーションを行なう。 ④ 講師による添削(文法・単語など)を行ない、各学生は配布されたエッセイに、訂正内容を書き込む。 ⑤ 各学生にて、エッセイを保管する。 ⑥ 授業終了後、締め切り日までに、次週のエッセイを作成し、提出する。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	実践英会話VIの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムVI)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員
	Career ProgramVI	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
学科	IR・MICEマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーストラリアの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

社会人になるうえで、必要とされる社会人基礎力の「3つの能力と12の能力要素」を体系的に学ぶ

【到達目標】

社会人基礎力を理解し、社会人としての心構えを身に付けることができる。

授業計画・内容

1回目	前に踏み出す力(アクション) オリエンテーション: 社会人基礎力の概要を理解する。
2回目	前に踏み出す力(アクション) 主体性: 物事に進んで取り組む力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる前に踏み出す力(アクション)前に踏み出す力(アクション)
3回目	前に踏み出す力(アクション) 働きかけ力: 他人に働きかけ巻き込む力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
4回目	考え抜く力(シンキング) 実行力: 目的を設定し確実に実行する力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
5回目	考え抜く力(シンキング) 課題発見力: 現状を分析し目的や課題を明らかにする力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
6回目	考え抜く力(シンキング) 計画力: 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
7回目	考え抜く力(シンキング) 創造力: 新しい価値を生み出す力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
8回目	チームで働く力(チームワーク) 発信力: 自分の意見をわかりやすく伝える力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
9回目	チームで働く力(チームワーク) 傾聴力: 相手の意見を丁寧に聞く力の具体例を知ること、その重要性を理解することができるチームで働く力(チームワーク)
10回目	チームで働く力(チームワーク) 柔軟性: 意見の違いや立場の違いを理解する力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
11回目	チームで働く力(チームワーク) 状況把握力: 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する能力の具体例を知ること、その重要性を理解することができる
12回目	チームで働く力(チームワーク) 議論規律性: 社会のルールや人との約束を守る力の具体例を知ること、その重要性を理解することができるチームで働く力(チームワーク)
13回目	チームで働く力(チームワーク) ストレスコントロール力: ストレスの発生源に対応する力の具体例を知ること、その重要性を理解することができるチームで働く力(チームワーク)
14回目	本講義で学んだ内容の学生スピーチ実施
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。(レポート提出)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。
・スピーチ内容
・レポート提出

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティヒューマンズスキル (キャリアプログラムⅦ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員
	Career ProgramⅦ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日/時限
学科	IR・MICEマネジメント科					

【担当教員 実務者経験】

高校卒業後に、単独NZに渡り、ホテルにて勤務。帰国後は、東京ディズニーランドで準社員として5年間Disneyサービスに触れ、サービスの真髄を学ぶ。退社後、ヒルトン大阪、ヒルトン東京ベイ、ヒルトン小田原リゾート&スパなどで、合計15年以上勤務。主に宿泊部フロント、ベル、コンシェルジュ業務、社内トレーニング業務、人材育成や、オーベルジュの支配人として職務に携わる。

【授業の学習内容】

社会人になり、多くの人の中でリーダーシップをとって行動できる人材になる為に必要な知識行動原則を学ぶ

【到達目標】

リーダーシップとは何なのか、また自身がリーダーシップをとるためには何が必要なのかを知ることが出来る

授業計画・内容

1回目	プロジェクトを通してリーダーが育つということに対して、理解を深める。
2回目	【OWNERSHIP】「ここは自分の領域」と言い切れる部分を持つことが重要性を学ぶことが出来る
3回目	【CHALLENGE】普段の仕事をする時とは、仕事に対するスタンスや価値観を変えて臨む必要があることを理解することが出来る
4回目	【OPINION】オピニオンを示すのに慣れていない人にも、オピニオンを表明する場を意図的に作る重要性に対して理解を深めることが出来る
5回目	【FACILITATION】プロジェクトは意思決定の連続体であることを理解して、ファンリテーターの重要性を学ぶことができる
6回目	【PROCESS】コンテンツよりもプロセスに熟達することで、組織を動かし、現実のビジネスを変えることが出来るということを理解できる
7回目	【OPEN】「セクショナリズムの壁」の問題を理解して、プロジェクトにとって何がベストかを考えることの重要性を学ぶことが出来る
8回目	【TRIAL】「まずはやってから考える」、という姿勢があるかないかで、成長スピードが全く違ってくることに実際に体験して、トライアルが重要なことを知る
9回目	【PEACE】安心感があれば、「CHALLENGE」「OPEN」「TRIAL」「OPINION」の4つが成り立たないことを理解することができる
10回目	【FEEDBACK】フィードバックや振り返りを、意図的に定期的に場を設定することの重要性を学ぶことが出来る
11回目	【RESPONSIBILITY & HAVE FUN!】厳しさと楽しさ、という矛盾しているように感じるかもしれないが両立はできることを知る
12回目	今までの授業の振り返りと、議論
13回目	実際にグループを作って、プロジェクトを実施
14回目	
15回目	【総まとめ】今までの学びを振り返り、初回授業からの成長を再確認することができる。(レポート提出)

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての 技術評価 は、以下の割合にておこなう。
・レポート提出

受講生へのメッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書 I)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	Business Documents I	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科			曜日/時限	2		

【担当教員、実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。
- ・PCでの文書スキルを身につける(本講義の文書は基本的にPCまたはスマートフォンなどで作成するものとする)

【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや考え方、スキルを卒業時に兼ね備えている。

授業計画・内容

1回目	ビジネス文書と文書作成の基本(構成、時候の挨拶など)を理解し、活用できる。PCで文書を作成する最低限の知識、スキルを身に付けることができる。
2回目	挨拶状の書き方を知り、実際に書くことができる。
3回目	案内状の書き方を知り、実際に書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
5回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
6回目	見舞い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
7回目	暑中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
8回目	お詫び状の書き方を知り、実際に書くことができる。
9回目	祝い状の書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。
11回目	依頼状の書き方を知り、実際に書くことができる。
12回目	手紙と封筒、メール文の書き方やマナーを知り、実際に書くことができる。文書など郵送のマナーについて理解する。
13回目	通知書+指示書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	企画書の基本を理解し、企画書を書くことができる。
15回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・演習テストの質 各30% × 3回分 計90%
・毎回の課題の完成に向けての意欲と修正、質向上に対する姿勢 10%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ビジネス (ビジネス文書Ⅱ) Business DocumentsⅡ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

フリーランス取材記者・編集者・エディトリアルデザイナー・カメラマン。音楽雑誌編集部勤務を経て、2004年に独立。専門は保育・育児・教育。「子ども・ファミリー」関連の取材ライティング、写真撮影、書籍の編集・レイアウトを行なう。

【授業の学習内容】

- ・様々なビジネス文書の書き方を学ぶ。
- ・社会マナーや考え方を身につける。
- ・社会人として即戦力で活躍するために必要な力を身につける。
- ・PCでの文書スキルを身につける(本講義の文書は基本的にPCまたはスマートフォンなどで作成するものとする)

【到達目標】

- ・様々なビジネス文書が独力で書けるようになる。
- ・社会人としてのマナーや考え方、スキルを卒業時に兼ね備えている。

授業計画・内容

1回目	前期の総復習を通して、ビジネス文章と文書作成の基本を再確認、再定着させることができる。
2回目	企画書の基本を理解し、企画書を書くことができる。
3回目	案内状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
4回目	お礼状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
5回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
6回目	挨拶状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
7回目	祝い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
8回目	見舞い状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
9回目	年賀状と寒中見舞いの書き方を知り、実際に書くことができる。
10回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を自分の思いや言葉で書くことができる。
11回目	勧誘状と断り状の書き方を知り、実際に書くことができる。
12回目	お詫び状の書き方を定着させ、実際に自分の思いや言葉で書くことができる。
13回目	報告書、始末書+念書の書き方を知り、実際に書くことができる。
14回目	激励状の書き方を知り、実際に書くことができる。
15回目	習熟度確認(こままでの4回分の授業から2種を指定)の文章を書くことができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・演習テストの質 各30% × 3回分 計90%
・毎回の課題の完成に向けての意欲と修正、質向上に対する姿勢 10%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (電話対応 I) Telephone Reception I	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロトコール協会初の認定講師としても活動。インバスケッドカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定 I 種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。							
【授業の学習内容】							
業種、業界問わず、社会人になくはならないビジネススキルの一つに電話対応スキルがある。取引先やお客様との電話対応を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話対応の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。講義に加え、音声トレーニング、電話対応ロールプレイングを行うことにより、自身の電話対応に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成にも役立てていただける。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応の重要性を理解し、好印象を与える電話対応が実践できるようになる。 ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話対応知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。 							
授業計画・内容							
1回目	オリエンテーションにより、授業の目的、進め方等を理解できる 電話の特性を知るとともに、自分の声を知ることができる 発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現の重要性を知り、説明できるようになる						
2回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 口癖改善の重要性、第一印象の重要性、電話対応の基本マナー、掛け方と受け方の注意点について説明できるようになる オープニング練習により電話対応の第一印象が磨かれ、自信を持った応対ができるようになる						
3回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 言葉遣いについて正しい知識を持つとともに、適切な言葉を活用できるようになる						
4回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 就職活動時の電話対応マナーについて理解するとともに、企業からの受電対応練習、メモの練習、企業に問い合わせをする際の架電対応練習をすることで就職活動時の電話対応が磨かれ、自信を持った応対ができるようになる						
5回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 担当者不在時の対応ポイントと、伝言メモの書き方を理解したうえで、基本の取次ぎ対応練習、担当者不在時の対応練習をすることで、取次ぎ・伝言対応ができるようになる						
6回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 受電対応総合練習と発表をすることで、電話対応スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる						
7回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる コミュニケーションの重要性、電話における観察スキル、傾聴スキル(相づち、復唱、共感)のポイントの説明ができるようになる 傾聴練習を通じて、傾聴スキルを高め、自信を持った応対ができるようになる						
8回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 質問スキル(クローズ質問、オープン質問)、説明スキル(わかりやすい話し方、好印象の話し方)のポイントの説明ができるようになる 質問・説明練習を通じて、質問スキル、説明スキルを高め、自信を持った応対ができるようになる						
9回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 問い合わせを受ける際の対応ポイントおよび問い合わせをする際の対応ポイントを説明できるようになる 問い合わせ対応練習を通じて、問い合わせに対応するスキルを高め、自信を持った応対ができるようになる						
10回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 架電対応総合練習と発表をすることで、電話対応スキルが磨かれ、自信を持った応対ができるようになる						
11回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 携帯電話のマナーを知り、正しいマナーで行動できるようになる クレーム対応(クレームの定義、お客様心理、クレームの基礎知識、クレームが企業に与える影響)のポイントについて説明できるようになる						
12回目	1～11回目の授業を振り返り						
13回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム対応(クレームの基礎知識、電話におけるクレーム対応フロー、オープニング)のポイントについて説明できるようになる						
14回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる クレーム対応(気持ちを静める傾聴、謝罪の種類と使い分け、質問による現状把握、説明・提案による解決、クロージング)のポイントについて説明できるようになる クレーム対応練習を通じて、クレーム対応スキルを高め、自信を持った応対ができるようになる						
15回目	発声発音練習を含めた音声強化練習を通じて、音声表現を磨くことができる 電話対応総合練習・発表により、総合的な電話対応スキルを習得し、自信を持った応対ができるようになる						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「筆記試験点数」とする。						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							
講師作成テキスト							

授業シラバス

科目名 (英)	ホスピタリティマナー (電話対応Ⅱ) Telephone Reception Ⅱ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員・実務者経験】

関西電力株式会社に入社。コールセンター実務を経て社内講師として指導に携わる。本社人事部門に移動後は社員教育・採用全般に携わる。2002年からマナー・コミュニケーション講師としての活動を開始。独立後の現在は年間200件を超える企業研修を担っている。日本電信電話ユーザ協会講師として電話対応コンクール指導やコンクール審査員を務める。コンクール指導においては、全国大会出場者を多数輩出する実績を持つ。また、日本マナー・プロコール協会初の認定講師としても活動。インバスケカードゲーム認定トレーナー、メンタルヘルスマネジメント検定Ⅰ種講師としても活動する。大学・専門学校非常勤講師。

【授業の学習内容】

業種、業界問わず、社会人になくはならないビジネススキルの一つに電話対応スキルがある。取引先やお客様との電話対応を正確、迅速、丁寧に行うことができれば、企業イメージの向上につながり、CS実現にもつながる。当授業は、ビジネスにおける電話対応の重要性や具体的な知識・スキル・マインドを学び、習得するものである。講義に加え、音声トレーニング、電話対応ロールプレイングを行うことにより、自身の電話対応に自信をつけることができ、就職活動や社会人生活におけるキャリア形成にも役立てていただける。

【到達目標】

- ・電話対応の重要性を理解し、好印象を与える電話対応が実践できるようになる。
- ・就職活動や今後の社会人生活をより有意義なものにする「電話応対知識・スキル・マインド」を学び、自信をもって振る舞えるようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションにより、授業の目的、進め方を理解できる 電話応対課題テーマ①「問い合わせ対応(難易度:低)」の内容を熟読し、適切なスクリプト作成ができるようになる
2回目	電話応対課題テーマ①「問い合わせ対応(難易度:低)」に向けて作成したスクリプトをもとにロールプレイングを行い、自信を持った応対ができるようになる
3回目	電話応対課題テーマ①「問い合わせ対応(難易度:低)」のロールプレイング発表会で適切な応対ができるかを確認することにより、自身の強み・弱みが認識できるようになる
4回目	電話応対課題テーマ②「問い合わせ対応(難易度:高)」の内容を熟読し、適切なスクリプト作成ができるようになる
5回目	電話応対課題テーマ②「問い合わせ対応(難易度:高)」に向けて作成したスクリプトをもとにロールプレイングを行い、自信を持った応対ができるようになる
6回目	電話応対課題テーマ②「問い合わせ対応(難易度:高)」のロールプレイング発表会で適切な応対ができるかを確認することにより、自身の強み・弱みが認識できるようになる
7回目	総合発表①: どのような電話を受けるかわからない状況でも適切な応対ができるかを確認することで自身の強み・弱みが認識できるようになる
8回目	電話応対課題テーマ③「クレーム対応(難易度:低)」の内容を熟読し、適切なスクリプト作成ができるようになる
9回目	電話応対課題テーマ③「クレーム対応(難易度:低)」に向けて作成したスクリプトをもとにロールプレイングを行い、自信を持った応対ができるようになる
10回目	電話応対課題テーマ③「クレーム対応(難易度:低)」のロールプレイング発表会で適切な応対ができるかを確認することにより、自身の強み・弱みが認識できるようになる
11回目	電話応対課題テーマ④「クレーム対応(難易度:高)」の内容を熟読し、適切なスクリプト作成ができるようになる
12回目	電話応対課題テーマ④「クレーム対応(難易度:高)」に向けて作成したスクリプトをもとにロールプレイングを行い、自信を持った応対ができるようになる
13回目	電話応対課題テーマ④「クレーム対応(難易度:高)」のロールプレイング発表会で適切な応対ができるかを確認することにより、自身の強み・弱みが認識できるようになる
14回目	1～12回目の授業を振り返り、自身の強み・弱みを認識する
15回目	総合発表②: どのような電話を受けるかわからない状況でも適切な応対ができるかを確認することで自身の強み・弱みが認識できるようになる
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術評価は「電話応対技術試験点数」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	
講師作成テキスト	

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティング・セールス (マーケティングⅢ) MarketingⅢ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。
 <エマーゼンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはマーケティング力などを含めたいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に着けて基礎能力をつける。

【到達目標】

サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て提案できるようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション: AIが代替できない知的創造力の重要性を理解することができる
2回目	クリエイティビティ基礎①: モノの見方を変え、新しい世界に気づくことができる
3回目	クリエイティビティ基礎②: モノの見方を変え、新しい世界に気づくことができる
4回目	発想力①: 発想力を身につけるために必要な知識と技術を学び、土台を作ることができる
5回目	発想力②: 様々なフレームワークを用いた発想の実践を行う
6回目	発想力③: 様々なフレームワークを用いた発想の実践を行う
7回目	垂直方向の思考力①: クリティカルシンキングを通して、氾濫する情報に惑わされず自分自身の力で情報を取捨選択する力をつけることができる
8回目	垂直方向の思考力②: ロジカルシンキングを通して、論理的に問題の原因究明や対策を考えられるようになることができる
9回目	垂直方向の思考力③: フェルミ推定を通し、日常に溢れている情報から仮説思考力を身につけることができる
10回目	水平方向の思考力①: ラテラルシンキングを通し、問題の正解は複数あることを学ぶことができる
11回目	水平方向の思考力②: ラテラルシンキングを通し、自ら課している思考の制限に気づくことができる
12回目	水平方向の思考力③: デザイン思考を通し、企画力から実行までのサイクルを学ぶことができる
13回目	人生を拓く知的創造力: 仕事観をデザインし、なぜ働くのかをクリエイトすることができる
14回目	人生を拓く知的創造力: コミュニケーション力の創造することができる
15回目	人生を拓く知的創造力: 答えのない問いに答え続けていく知的創造力を養うことができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・演習課題の完成度 100%

受講生へのメッセージ

これから創造力が重要性を増す時代です。
 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。
 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン

授業シラバス

科目名 (英)	マーケティング・セールス (マーケティングⅣ) MarketingⅣ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

15年間のゲーム開発(プランナー、ディレクター、プロデューサー)を経て、2018年に研修会社を設立。
 <エマーゼンス・ジャパン合同会社 代表> <https://emergence-japan.com/>

【授業の学習内容】

企画立案は、ただ単にアイデアを考えれば良いというものではありません。そこにはマーケティング力などを含めたいくつかの段階とノウハウがあります。それらの段階とノウハウを身に付けて基礎能力をつける。

【到達目標】

サービス内容や新しいプランなどを的確かつ効率的に組立て、以前に学んだマーケティング力をいかして提案できるようになる。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション)ブレインストーミングのグラドルールの理解
2回目	ブレインストーミング:マインドマップを用いて発想を広げられるようになる
3回目	ブレインストーミング:635法を用いて発想を広げられるようになる
4回目	ブレインストーミング:スーパーヒーロー発想を用いて発想を広げられるようになる
5回目	ブレインストーミング:タウンウォッチング法も用いて発想を広げられるようになる
6回目	ブレインストーミング:天狗俳諧発想法を用いて発想を広げられるようになる
7回目	ブレインストーミング:マンダラートを用いて発想を広げられるようになる
8回目	ブレインストーミング:シックスハット法を用いて発想を広げられるようになる
9回目	ブレインストーミング:アイデアしりとりを用いて発想を広げられるようになる
10回目	ラテラルシンキング:クリティカルな思考を身に付けゼロベースで考えられるようになる
11回目	ラテラルシンキング:抽象化する力を身に付け、モノを見る視点を変えられるようになる
12回目	ラテラルシンキング:練習問題によるトレーニング
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	マーケティング力・発案力を用いて、プロジェクトに取り組み、発案をすることができる。
15回目	マーケティング力・発案力を用いて、プロジェクトに取り組み、発案をすることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・演習課題の完成度 100%

受講生へのメッセージ

これから創造力が重要性を増す時代です。
 創造力は生まれ持った才能ではなく、知識と技術で向上します。
 入社した時点で、戦力になれるよう準備しましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

パワーポイントのスライド、模造紙、付箋紙、カラーペン

授業シラバス

科目名 (英)	企業研究 (企業研究Ⅳ) Company Research IV	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	曜日/時限
【担当教員 実務者経験】							
<p>ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員</p>							
【授業の学習内容】							
<p>企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。</p>							
【到達目標】							
<p>ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。</p>							
授業計画・内容							
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。						
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。						
3回目	【研究概要の構築】 ・1. 企画書の目的設定を行う。 ・2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。						
4回目	【研究内容の構築】 ・プランの絞り込みを行い、提案内容の実行できる方法論の策定、予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。						
5回目	【プレゼンテーション内容決定】1 ・問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。						
6回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また問題点とその解決方法を考えることができる。						
7回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
8回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。						
9回目	【プレゼンテーション資料完成】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
10回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。						
11回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・企画書の目的設定精査を行う。 ・ゲストターゲットの設定精査を行う。 ・前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。						
12回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
13回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。						
14回目	【プレゼンテーション最終確認】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる						
15回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。						
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。						
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業を聴く態度・制作する態度・チームワーク25%、企画内容評価25%						
受講生への メッセージ							
【使用教科書・教材・参考書】							

授業シラバス

科目名 (英)	外国語Ⅱ (実践英会話Ⅴ) Practical English Ⅴ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
【担当教員 実務者経験】							
イギリスのVFX制作会社である「ダブル・ネガティブ(Double Negative)」に5年務めた後、日本へ移住。 現在は、フォトグラファーとして活動の傍ら、フリーランスの英語講師としても活躍。							
【授業の学習内容】							
授業の内容は説明とプレゼンテーションの準備方法です。テキスト、フォーマット、視覚教材など。学生は自分でプレゼンテーションを作成し、定期的にそれらを練習し、そして毎週オンライン課題を提出します。 最終発表は各学生が行います。ビデオ、オンラインタスク、プレゼンテーション資料など、さまざまな資料がレッスンで使用されます。							
【到達目標】							
このクラスの目的は、生徒が自信を持ってプレゼンテーションをする経験を積むことです。この経験を積むことにより、公の場で話し、ゲストに情報を提供する準備をします。							

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション(目標設定、プレゼンテーション発表)
2回目	<p>英語でプレゼンテーションをするための基本的なテクニックを学び、各プレゼンテーションの内容と手法を理解することができます。また、英語(英会話)学習に必要な、「話す」「聞く」「読む」「書く」を体系的に学ぶことが出来る。</p> <p>【課題提出方法】 課題提出日までに、各テーマに沿った、課題用フォーマットを使用して、100単語以上のエッセイをメール添付にて、提出する。</p> <p>【講義内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全学生のエッセイを全員に配布。 ② 各学生個人にて、エッセイの内容を読み、理解(和訳)する。 ③ 各学生によるプレゼンテーションを行なう。 ④ 講師による添削(文法・単語など)を行ない、各学生は配布されたエッセイに、訂正内容を書き込む。 ⑤ 各学生にて、エッセイを保管する。 ⑥ 授業終了後、締め切り日までに、次週のエッセイを作成し、提出する。
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	実践英会話Ⅴの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業における技術(もしくは試験・レポート等)評価は、「プレゼンテーション」とする。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンス I) Core Management Advance I	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートルロジ[®]」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。1年時に学んだスキルの理解を深めながら応用することで、脳の構造及び心理と自分自身のステイトマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持っている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。

授業計画・内容

1回目	(オリエンテーション、目標設定) 学習の5段階を説明。5段階目の必要性、目標達成のためのコミュニケーションを理解し、目標設定をする
2回目	(フォートルロジ①) 1番強いエネルギーと一番弱いエネルギーを理解することができる。
3回目	(フォートルロジ②) 4タイプ別の相性と攻略法を理解することができる。
4回目	(フォートルロジ③) 4タイプ別の接客の極意を理解することができる。
5回目	(フォートルロジ④) 4タイプ別のノルマに対する反応を理解することができる。
6回目	(フォートルロジ⑤) 4タイプ別の指導の仕方、褒め方を理解することができる。
7回目	(フォートルロジ⑥) フォートルロジを活用した企画とプレゼンのワークで理解を深めることができる。
8回目	(一致と不一致、ニューロロジカルレベル) 自分の内面に意識を向けることを理解することができる。
9回目	(知覚フィルター、思い込み) 情報の認識は自分の世界観であり、それが外的表現に現れることを理解することができる。
10回目	(3人のメンター、存在の承認) 良い助言者の存在や、スポンサーシップを理解することができる。
11回目	(モデリング、効果的質問、バリュー) 良いモデルから学ぶスキル、問題解決の質問スキル、価値基準の出し方を理解することができる。
12回目	(潜在意識に影響を与える言語モデル) 心理的に作用する言語の組み立て方を理解することができる。
13回目	(夏休み課題の確認、NLPの復習) 夏休みの課題を発表する。NLPの復習をして理解を深めることができる。
14回目	(メタファー、ネステッドループ) たとえ話を使った伝え方、心理に働きかけるプレゼンテーションのスキルを理解することができる。
15回目	(前期まとめ) 前期のまとめをして理解を深めることができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
◎制作課題の提出率および完成度100%

**受講生への
メッセージ**

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

--

授業シラバス

科目名 (英)	コミュニケーション (コアマネジメント・アドバンスⅡ) Core Management AdvanceⅡ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プライダル企業を中心に、様々な企業に対する人材育成トレーニング歴15年、および部下指導歴20年の経験を持つ。井上は「禁断の気質学 フォートルロジ[®]」の著者。

【授業の学習内容】

行動心理学のベーススキルを学ぶことで、問題解決の糸口を見つけることができる。それによって社会人としてのストレスフリーの環境を作り出すことは、学生が社会人になった時にとても有効なスキルとなり得る。1年時に学んだスキルの理解を深めながら応用することで、脳の構造及び心理と自分自身のステイトマネジメントを学ぶ。

【到達目標】

1つ目に、心理学的な脳の仕組みを理解する。2つ目に、生まれ持っている人間のエネルギーバランスを理解する。そして3つ目に、この2つを使って良好なコミュニケーションスキルを習得し、実生活で活用する。

授業計画・内容

1回目	(前期復習／影響言語①) 前期内容について理解度を把握するための確認テスト実施、解答および解説により、理解を深めることができる。影響言語の診断テスト解説
2回目	(影響言語②) 方向性、判断基準の言語の違いを理解することができる。
3回目	(影響言語③) 選択理由、変化、相違対応の言語の違いを理解することができる。
4回目	(影響言語④) システム、主体性の言語の違いを理解することができる。
5回目	(影響言語⑤) 影響言語全体を復習して理解を深めるとができる。
6回目	(影響言語⑥) 言語を使っのプレゼンテーションを通して、様々なパターンの活用できるようになるとができる。
7回目	(フォートルロジ) 社会人としてストレスに打ち勝つための自分を知るとができる。
8回目	(フォートルロジ) 接客におけるプレゼン知識を身に付けるとができる。
9回目	(コアマネジメント総合復習) 気質の4つの配分による自分の得意、不得意の理解を深めるとができる。
10回目	(コアマネジメント総合復習) あらゆる物事に反応する脳の仕組みを復習し理解を深めるとができる。
11回目	(課題確認・復習) 冬休み課題確認と復習をし理解度を確認するとができる。
12回目	(コアマネジメント総合復習) 人が影響される言語を復習し、活用できるようになるとができる。
13回目	前期、後期の授業内容について習熟度確認を行う
14回目	(アウトカム設定、夢の大作戦) 現在から未来への未来予想図を作るとができる。
15回目	(宝地図) 未来の宝地図を作成し、自分の望む未来を明確化するとができる。

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。
◎制作課題の提出率および完成度100%

受講生へのメッセージ

ベーシックでの学びをさらに深め、影響言語も学ぶことで、コミュニケーションスキルが格段と上がります。社会人直前の準備として、様々な年代、様々なタイプの人に対応できるコミュニケーションスキルの習得はとても重要ですので、楽しく身に付けていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (製菓調理 I) confectionery & cooking	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ハイアットリージェンシー大阪に10年勤務。
退社後、ダイニングバー「ニーネ」を開業。地元の食材を使ったメニューや、ゲストに合わせた料理提案をして、即興でオリジナル料理を仕上げるスタイルで営業。
現在、株式会社ジスタスの代表取締役。飲食事業のコンサルティング、企画、運営、人材教育に携わっている。

【授業の学習内容】

調理実習(特にコース料理)を基本とし、調理技術を学ぶと共に、食に関わる仕事の現状や必要なスキル、衛生面等についても学ぶ。

【到達目標】

ビジネス……仕入れ価格や販売価格の設定など、飲食業におけるビジネス感を身に着ける。
知識……レシピからコンセプトや調理方法を読み解き、お客様に伝えることができる。
技術……提供方法や盛り付けの方法を学び、料理の見せ方でお客様を喜ばせることができる。
キャリア教育……料理を提供する側の心構えについて学ぶ。(特に、衛生面に気を配りながら作業ができる。チームワークについて学び、役割を決め作業をこなすことができる。)

授業計画・内容

1回目	ガイダンス
2回目	魚料理(白身魚のムニエル)を作ることが出来る。
3回目	魚料理(白身魚のポアレ)を作ることが出来る。
4回目	魚料理(白身魚のソテー)を作ることが出来る。
5回目	魚料理の仕入れに関する知識、価格設定などが出来る。 料理構成から組み合わせとバランスの考察と傾向について学び、レストランやウェディングで提供される魚料理について説明ができる。
6回目	前回の授業を踏まえ、魚の仕入れから、調理、価格設定が出来る。
7回目	前菜料理を作ることが出来る。
8回目	前菜料理に必要な食材の仕入れに関する知識、価格設定などが出来る。 料理構成から組み合わせとバランスの考察と傾向について学び、レストランやウェディングで提供される魚料理について説明ができる。
9回目	前回の授業を踏まえ、前菜に必要な食材の仕入れから、調理、価格設定が出来る。
10回目	デザート(チョコムース・ビスキュイ)を作ることが出来る。
11回目	デザート(フォンダンショコラ)を作ることが出来る。
12回目	デザートに必要な食材の仕入れに関する知識、価格設定が出来る レストランやウェディングでのデザートについて学び、提供方法や種類について説明ができる。
13回目	前回の授業を踏まえ、デザートに必要な食材の仕入れから、調理、価格設定が出来る。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	習熟度確認と統括

評価基準
A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法
出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・調理実習(60分) 課題に対する調理実習。試験用に用意したルーブリック評価表を使い採点する。
・筆記試験(30～40分) 15～20問程度の問題用紙に対する回答

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	F&B概論・演習 (製菓調理Ⅱ) confectionery & cooking II	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

ハイアットリージェンシー大阪に10年勤務。
退社後、ダイニングバー「ニーネ」を開業。地元の食材を使ったメニューや、ゲストに合わせた料理提案をして、即興でオリジナル料理を仕上げるスタイルで営業。
現在、株式会社ジスタスの代表取締役。飲食事業のコンサルティング、企画、運営、人材教育に携わっている。

【授業の学習内容】

調理実習(特にコース料理)を基本とし、調理技術を学ぶと共に、食に関わる仕事の現状や必要なスキル、衛生面等についても学ぶ。

【到達目標】

ビジネス……仕入れ価格や販売価格の設定など、飲食業におけるビジネス感を身に着ける。
知識……レシピからコンセプトや調理方法を読み解き、お客様に伝えることができる。
技術……提供方法や盛り付けの方法を学び、料理の見せ方でお客様を喜ばせることができる。
キャリア教育…料理を提供する側の心構えについて学ぶ。(特に、衛生面に気を配りながら作業ができる。チームワークについて学び、役割を決め作業をこなすことができる。)

授業計画・内容

1回目	肉料理(ソテー)を作ることが出来る。
2回目	肉料理(グリエ)を作ることが出来る。
3回目	肉料理(ロティル)を作ることが出来る。
4回目	肉料理に必要な食材の仕入れに関する知識と、価格設定が出来る。 料理構成から組み合わせとバランスの考察と傾向について学び、レストランやウェディングで提供される肉料理について説明ができる。
5回目	前回の授業を踏まえ、肉の仕入れから、調理、価格設定が出来る。
6回目	コース料理とアラカルト料理の販売価格設定の違いを学び、理解することが出来る。
7回目	フロマージュの種類と、調理法、料理との相性を学び、理解することが出来る。
8回目	フランス料理の基本ソース(フォン、ルー)を学び、制作できる
9回目	フランス料理の基本ソース(ソースベシャメル、ソースヴェルナーテなど)を学び、制作できる
10回目	フランス料理の基本スープ(ポタージュ・クレール)を学び、制作できる
11回目	コース料理の設定とバランス、仕入れと販売価格の設定を行ない、予算案を作成する
12回目	グループワーク)チームを作り、コース料理の作成を行なう。
13回目	グループワーク)チームを作り、コース料理の作成を行なう。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	習熟度確認と統括

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・調理実習(60分) 課題に対する調理実習。試験用に用意したルーブリック評価表を使い採点する。
・筆記試験(30～40分) 15～20問程度の問題用紙に対する回答

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	リゾート・ホテルオペレーション (企業研究Ⅴ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員
	Company Research Ⅴ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	60 4	開講区分 曜日/時限
学科名	IR・MICEマネジメント科					
【担当教員、実務者経験】						
<p>ウェスティン大阪でレストラン及びフロントMGR、客船飛鳥でF&Bヘッドウェイター、ヒルトン大阪レストラン統括MGR等を務める。1996年第1回 日本メートルドテルコンクール第5位。現在はホテル・レストランコンサルタントとして活動。ラグジュアリーホテル副総支配人、全日本メートルド・テル連盟 副会長、国際メートルド・テル連盟 会員。CGB(フランス・ジョルジュバティスト協会)主催サーヴィスコンクール世界大会運営委員。CGBサーヴィスコンクール日本大会 審査員</p>						
【授業の学習内容】						
<p>企業(ホテル)のプロモーションを実際に企画提案することにより、企画提案書の立案、作成、プレゼンテーションを学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>ホテルのプロモーションの作り方、企画広報の進め方を学び、プレゼンテーション力を高める。</p>						
授業計画・内容						
1回目	【科目概要・目標解説】科目の概要、目標解説を行い、プロジェクトの目的を確認することができる。					
2回目	【テーマ発表】 企業訪問を行い、見学、課題説明を受けた後、情報収集、ヒアリング、質疑応答を行い、プロジェクトをスタートさせる。					
3回目	【研究概要の構築】 ・1. 企画書の目的設定を行う。 ・2. ゲストターゲットの設定、マーケットリサーチ、ブレインストーミング、プラン案の抽出を行い、個人のプロジェクト開始の土台を形成することができる。					
4回目	【研究内容の構築】 ・プランの絞り込みを行い、提案内容の実行できる方法論の策定、予算を計算し、スケジュールの策定を行うことができる。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の確認を行うことができる。					
5回目	【プレゼンテーション内容決定】1 ・問題点の整理を行い、提案内容(プラン)の決定、提案のメリット構築を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の解決方法を決定させることができる。					
6回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 問題点の整理、提案内容、提案のメリット、予算、スケジュールを再度確認し決めることが出来る。また 問題点とその解決方法を考えることができる。					
7回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。					
8回目	【プレゼンテーション資料作成】提案書の作成 ・問題点の整理を行い、提案内容を考える。また、提案のメリット、予算 を考え、スケジュールの見直しを行うことができる。問題点とその解決方法を考えることができる。					
9回目	【プレゼンテーション資料完成】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる					
10回目	【第1回プレゼンテーション】 ・プレゼンテーション ・フィードバックを行い、プランの見直し、不足点をあらい出すことができる。					
11回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・企画書の目的設定精査を行う。 ・ゲストターゲットの設定精査を行う。 ・前回のプレゼンテーションの反省を踏まえ、プレゼンテーション・プランの最終決定させることができる。					
12回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。					
13回目	【プレゼンテーション内容精査】 ・提案内容の実行できる方法論の確定させ、予算、スケジュールの再設定・調査を行う。 ・提案段階で考えられる注意点、留意点事項、不利益の再確認と解決を行うことができる。					
14回目	【プレゼンテーション最終確認】 ・プレゼンテーション内容の確認、精査、修正を行う。 ・最終準備を行い、次回のプレゼンテーションに向けて意識を高めることができる					
15回目	【最終プレゼンテーション】 ・企業様の前でプレゼンテーションを行い、採用プランの決定を行う。 ・フィードバックをいただき、改善点を見つめなおすことができる。					
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。					
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・授業を聴く態度・制作する態度・チームワーク25%、企画内容評価25%					
受講生へのメッセージ						
【使用教科書・教材・参考書】						

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (イベントプランニング I)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	Event planning I	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。
大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

企画立案・企画書作成、プレゼンテーション力、
そして、イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントを一から企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ① 企画書とは…／ ② 公演概要を理解する
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 ③ 制作スケジュールを理解する
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する
6回目	プレゼンテーション
7回目	プレゼンテーションのフィードバック イベント制作の流れを理解する (打ち合わせ／準備物／下見とは)
8回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルについて理解する
9回目	【イベント制作の基礎知識】 タイムスケジュールを作成が出来るようになる
10回目	実施に向けて準備進行
11回目	実施に向けて準備進行
12回目	(イベントを終えて)反省会～報告書の作成が出来るようになる
13回目	【イベント制作の基礎知識】 収支を含む必要経費等の算出・概算予算について理解する
14回目	【イベント制作の基礎知識】 集客するとは
15回目	振り返り

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・グループワークへの取り組み方
・プレゼンテーションへの取り組み方
・イベント当日への取り組み方

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンド I (イベントプランニング II) Event planning II	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

プロダクションでのマネージャーを経て、イベント制作へ転身し現在に至る。
大型フェス・ファッションショーでの制作業務に従事する。

【授業の学習内容】

企画立案力・企画書作成・プレゼンテーション力、そしてイベント制作・運営を行う為の知識を身に付けて頂くべく講義を中心にを行います。
そして、グループワークの中でのコミュニケーション力・役割分担・情報共有の大切さを育みます。
イベント制作過程に合わせてその際に必要なスキルや知識を学ぶ講義と実務を行います。

【到達目標】

イベントをゼロから企画し、制作、当日の運営 全てを担える力を習得することを目標とします。
そして、チームで取り組む力・タイムマネジメント等 プロへの第一歩を育みます。
イベント運営における基礎知識・制作・運営に必要な知識・スキルを習得することを目指します。

授業計画・内容

1回目	【オリエンテーション】 これから取り組むイベント企画の概要・趣旨を理解する
2回目	【企画立案力を身に付ける】 企画立案の流れを理解する／企画を立案するために「アイデア出し」～「アイデアを企画へ」が出来るようになる
3回目	【企画書の作り方を身に付ける】 公演概要書の作成が出来るようになる / グループワーク ①
4回目	【企画書の作り方を身に付ける】 企画書の作成が出来るようになる / グループワーク ②
5回目	【プレゼンテーション力を身に付ける】 プレゼンテーションに必要な準備・ポイントを理解する / グループワーク ③
6回目	プレゼンテーションへ向けて準備進行 / グループワーク ④
7回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
8回目	プレゼンテーションのリハーサルとフィードバックを行います
9回目	プレゼンテーション
10回目	【イベント制作の基礎知識】 制作スケジュールの重要性を理解し、制作スケジュールを作成出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ①
11回目	【イベント制作の基礎知識】 実施マニュアルの作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ②
12回目	【イベント制作の基礎知識】 イベント制作の流れを理解する / 実施に向けて準備進行 ③
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り
14回目	【イベント制作の基礎知識】 反省会～報告書の作成が出来るようになる / 実施に向けて準備進行 ④
15回目	実施に向けて準備進行 ⑤

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・ペーパー試験実施
・プレゼンテーションへの取り組み方
・グループワークへの取り組み方

**受講生への
メッセージ**

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅠ) Global Hospitality I	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
【担当教員、実務者経験】							
JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人が増えている現状からこの授業の必要性を理解する。 訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使つての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 また、世界には多様な文化があることを理解し、その都度相手を尊重する姿勢を身に着ける。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 日本のインバウンドの現状を理解する。
2回目	IRの仕組み、可能性と課題を理解した上で議論し、考えを深めることができる。
3回目	表情、挨拶、身だしなみ、話し方、仕草の重要性を理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
4回目	初対面のお客様と英語で自己紹介・挨拶(お辞儀、握手)をすることができるようになる。
5回目	多文化において様々なタブー(宗教、政治など)があることを理解し、どのように対応すればいいかを学ぶことができる。
6回目	顧客満足とは何かを理解することができる。
7回目	フォーマルな場での席次とドレスコードについて理解し、場に適した対応をすることができるようになる。
8回目	VIP対応の基本的なマインドを理解し、日本語・英語ロールプレイングで実践することができる。
9回目	英語で道案内ができるようになる。
10回目	関西の観光スポットを英語で紹介することができるようになる。
11回目	日本の観光名所を英語で紹介することができるようになる。
12回目	インバウンドのお客様に食事を提供する際に気を付けることを理解し、その際に使う英語フレーズを学ぶことができる。
13回目	メニューをつくろう:日本料理を英語で表現することができるようになる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	グローバルホスピタリティⅠの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	MICE・インバウンドⅡ (グローバルホスピタリティⅡ)	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
	Gloval HospitalityⅡ	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
学科名	IR・MICEマネジメント科					曜日/時限	
【担当教員、実務者経験】							
JALスカイ大阪に入社、グランドスタッフとしてVIP対応に携わる。							
【授業の学習内容】							
訪日外国人に対しての基本的な理解、接客マナーと、英語を使っての接客表現を学ぶ。							
【到達目標】							
訪日外国人に接する際の基本的な英語表現を覚え、使うことができるようになる。 日本の伝統や文化・土地などを英語で紹介できる力を身に付ける。							

授業計画・内容	
1回目	シラバス説明:この授業の内容、目的、ルールを理解できる。 前期で学んだ内容を復習することができる。
2回目	基本的な接客マナーを理解し、実践することができる。
3回目	グローバルな人材に必要な要素を身に付け、実践することができる。
4回目	コミュニケーション能力を身に付け、積極的にお客さまとコミュニケーションをとることができる。
5回目	好感をもてる話し方、聴き方を身に付ける。
6回目	英語で他己紹介をすることができる。
7回目	日本について知る:伝統、文化、土地、習慣など
8回目	日本の伝統、文化、土地、習慣について、英語で説明することができる。
9回目	いろいろな国について知る:伝統、文化、習慣などを知り、日本との違いを理解する。
10回目	世界におけるさまざまな問題や現状を理解し、グローバルな考え方を身に付ける。
11回目	「ホスピタリティ」と「サービス」の違いを理解できる。
12回目	ホスピタリティのある接客について、いろいろな企業のサービスを通して考える。
13回目	ホテルやレストランにおける基本的な接客英語を学び、実践することができる。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	グローバルホスピタリティⅡの統括
評価基準	A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。
評価方法	出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。 なお、本授業においての技術評価は以下の割合にておこなう。 ・期末試験の点数
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

授業シラバス

科目名 (英)	ブライダル・ビジネス (テーブルコーディネート) Table Decoration	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

2007年フローリストナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップ THE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、ベイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

【授業の学習内容】

テーブルコーディネートの役割を知り、色彩感覚、食空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる

【到達目標】

テーブルコーディネートがホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、提案力を身に着ける事ができる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーションおよび、デコレーションの概念と、テーブルコーディネートの様式が理解できるようになる
2回目	テーブルコーディネート(テーブルリネン含む)の基礎知識を知る事ができるようになる
3回目	ペーパーアイテムの知識を得る事ができるようになる
4回目	センターピースの種類や使用方法について理解できるようになる&人気のセンターピースのマーケットリサーチ
5回目	ヨーロッパスタイルのテーブルコーディネート企画
6回目	ヨーロッパスタイルのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
7回目	Xmasのテーブルコーディネート企画
8回目	Xmasのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
9回目	和のテーブルコーディネート企画
10回目	和のテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
11回目	ナチュラルテイストのテーブルコーディネート企画
12回目	ナチュラルテイストのテーブルコーディネートの装飾ができるようになる
13回目	オリジナルテーブルコーディネートの企画
14回目	オリジナル作品の制作
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価40%**とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・学んだ事を活かしたオリジナルデザインの企画案30%
・企画案に基づいた作品の完成度評価70%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	ブライダル・ビジネス (フラワーデザイン) Flower Design	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員・実務者経験】

2007年フローリストナナ開業、2011年国家検定1級フラワー装飾技能士資格取得、大阪府知事認定講師資格取得。高島屋・スイスホテルの装飾やドレスショップTHE HANYの専属フラワーコーディネーターを務める。その他、ベイサイド迎賓館、セントフォーリアなどのゲストハウス在中フローリストを務めるなど。花全般多岐にわたる事業に携わる。2019年G20にも参画

【授業の学習内容】

サービス業のホスピアアイテムとして欠かせる事の出来ない花についての役割を知り、花が持つセラピー要素、また色彩感覚、空間コーディネートに触れる事により、提案力の高いサービスマンを目指す事が出来るようになる

【到達目標】

日本人の生活習慣に馴染みのない花がホスピタリティにどのように関係するかを意識できるようになる。また、感性を刺激し、新たな視野をもてるようになるようになる

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション
2回目	花の流通と花の持つ特性。また各々の場所での役割や価格についてを知る事ができる ハロウエイアレンジが作れるようになる
3回目	花束が作れるようになる
4回目	ブートニアが作れるようになる(坂口先生コラボ授業)
5回目	ホテル装飾(課外授業)
6回目	ホテル装飾(課外授業)
7回目	ハーバリウムが作れるようになる
8回目	Xmas装飾施工
9回目	正月しめ飾りが作れるようになる
10回目	レジンアクセサリーが作れるようになる
11回目	アレンジが作れるようになる
12回目	ドライフラワーブーケが作れるようになる ※宿題あり(オリジナル作品のイメージ提示と花材あげ)
13回目	造花のリースが作れるようになる
14回目	オリジナル作品の制作
15回目	花言葉・アニバーサリーフラワーなどの意味を知る事ができる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価40%**とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・学んだ事を活かしたオリジナルデザインの企画案30%
・企画案に基づいた作品の完成度評価70%

受講生への メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 I) International Tourism I	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に人気の観光地と近畿周辺の観光地について(各地域の特色、特産品(お土産物を含む)の知識を習得する、外国人を案内する方法(各国の習慣やマナー、日本で困る事を知り、各国ごとの対応を考える。簡単な英語で案内出来る様に学習する

【到達目標】

- ・インバウンド観光客に日本の観光地を英語で紹介できるようになる。
- ・主に宿泊客のホテル周辺の観光について聞かれた際の対応が出来るようになる フィールドワークを実施して、インバウンドガイド体験をし、ガイド業務内容を理解出来る様にする

授業計画・内容

1回目	ガイダンス、国際観光(インバウンド)の歴史、インバウンドの仕事の種類と内容について把握できるようになる
2回目	インバウンドの仕事に必要な知識について 外国人に人気の観光地を各自研究 課題研究—提出出来る様になる
3回目	人気観光地研究 国別マナーや習慣(宗教含む)を研究-留意点と心得(対応)を理解出来る様になる
4回目	人気観光地研究、大阪等近畿周辺) 国別人気観光地の研究 各業種の外交人受け入れ対策について 課題研究—提出出来る様になる
5回目	インバウンド英語 基礎英語表現について 挨拶等の会話が出来る様になる
6回目	インバウンド英語 道案内が出来る様になる
7回目	インバウンド英語 買い物 食事の案内が出来る様になる
8回目	インバウンド英語 想定される質問や日本で困る事に対応出来る様になる
9回目	インバウンド英語 観光案内英語① 2コマ対応の日程を考える—発表—実施案決定、出来る様になる
10回目	インバウンド英語 観光地案内② 各担当決定、観光案内、誘導&交通機関の案内等出来る様になる
11回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成①が出来る様になる
12回目	インバウンド英語 観光地研究③ 各自担当か所を日本語と英語で作成②が出来る様になる
13回目	1回目～12回目までの授業の振り返り・理解度確認
14回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験でいる様になる
15回目	フィールドワーク実施(大阪で外国人に人気の観光地を英語で案内する)体験できるようになる

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + 授業態度評価(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + 技術評価(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
・筆記試験50点
・課題レポート50点
・

受講生へのメッセージ

国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	旅行観光 I (国際観光 II) International Tourism II	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

1988から旅行業界で仕事をしています(海外添乗、インバウンド業務) その経験を活かして、旅行関係の授業を受け持っています。

【授業の学習内容】

外国人に日本各地の人気観光地を英語で説明出来る様に学習する。
 ・必須のフレーズや表現方法を覚え、自分の英語で簡単に観光地の説明を出来る様練習する

【到達目標】

・外国人に日本のお勧めの観光地光について聞かれた際の対応について、自分の英語で簡単に案内、説明が出来る様になるを目指す。
 ・必須のフレーズや表現方法を身につける

授業計画・内容

1回目	外国人から見た日本人の印象 日本人の心、本音と建て前の根底にあるもの(英語と日本語)で説明出来る様になる、
2回目	日本文化 神社仏閣の説明と参拝方法を英語と日本語で案内出来る様になる
3回目	京都の歴史(英語と日本語) 神社仏閣について(英語と日本語)で案内出来る様になる 京都の観光地研究
4回目	京都を英語で案内(竜安寺、三十三間堂、二条城)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現①
5回目	外国人の選ぶ人気の観光地とお土産物(国別) 好きな食べ物、嫌いな食べ物について知る、浮世絵について(英語と日本語)で案内出来る様になる
6回目	奈良を英語で案内(東大寺、春日大社、鹿について)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現②
7回目	広島を英語で案内(厳島神社、宮島、原爆ドーム)(英語と日本語)で案内出来る様になる 必須表現③
8回目	今まで学習したところの総復習、各自英語で案内出来る様、観光地を調べたり下調べをする
9回目	京都、奈良、大阪についての質問に英語で答える練習をし、英語で答える事が出来る様になる
10回目	東京を英語で案内出来る様モデル会話学習(浅草寺、築地、皇居について)英語で質問に答える事が出来る様になる。
11回目	富士、箱根を英語で案内(富士山、富士五湖、箱根について)(英語で質問に答える事が出来る様になる
12回目	北海道を英語で案内(知床、阿寒湖、札幌等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
13回目	東北地方を英語で案内(松島、平泉、ねぶた等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
14回目	九州を英語で案内(別府、湯布院、阿蘇等について)英語で質問に答える事が出来る様になる
15回目	総復習 今まで学習した地方についての質問に英語で答える事が出来る様になる。レポート提出

評価基準

A・B・Cを合格とし、Dを不合格とする。
 点数 80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をC評価とし、59点以下はD評価(不合格)とする。

評価方法

出席評価50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験50点
 ・課題レポート50点

受講生へのメッセージ

国際観光、インバウンドが急性帳しているなか、普通に外国人を多く見かけ、質問される機会が増えています。日本を知ってもらふ事と、外国を知る事の両方が必要です。また語学力も必要です。この授業ではこれらを学習し、簡単な英語で外国人をおもてなし出来る事を体験、目標とします。学習方法(授業と自宅)をお知らせしますので、楽しいおもてなしの技術を身につけましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

スピードマスター 1時間でわかる インバウンド対策 訪日外国人のおもてなしはこれで決まり!(日本語)
 ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編(日本語)

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座Ⅰ (手話Ⅲ) Sign Language Ⅲ	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	曜日/時限

【担当教員、実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 聴覚障害者とのコミュニケーション方法について考える 基本接客用語を学ぶ
2回目	接客の基本である挨拶の手話を学ぶ。
3回目	日程や曜日に使う数字を覚える。宿泊費や交通経路、予約日や時間を表現できるようにする。
4回目	会話や予約の時に使える人や家族、色などの手話を学ぶ。
5回目	仕事や職業の手話を学ぶ。自分の職業を紹介できるようにする。
6回目	趣味の手話を学ぶ。主に日常会話で使えるようにする。
7回目	疑問の手話を学び、お客様に質問できるようにする。
8回目	接客の会話を考え、手話表現を学ぶ。
9回目	楽しいや悲しいなど感情の手話を使ってコミュニケーションすることを学ぶ。
10回目	テキストの例文を日常生活に置き換え、学習する。ホテルのカウンターでの会話を考え、手話表現を学ぶ。
11回目	聴覚障害者との交流会。学習した手話を使ってコミュニケーションする方法を学ぶ。
12回目	前回の交流会を踏まえて、疑問点などの解決方法を学ぶ。
13回目	朝食や夕食などで使う食べ物と食事中の会話を手話を学ぶ。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	手話Ⅲの統括

評価基準 まとめとこれからの目標(手話技能検定4級受験)について

評価方法 **出席評価**50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点
 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点
 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級

授業シラバス

科目名 (英)	資格試験講座 I (手話IV) Sign Language IV	必修 選択	必修	年次	4	担当教員	
学科名	IR・MICEマネジメント科	授業 形態	講義 演習	総時間 (単位)	30 2	開講区分	
						曜日/時限	

【担当教員、実務者経験】

手話通訳士として、現在当市の登録手話通訳者として活動中。大学、短期大学、医療系の専門学校、高校等で講師として活動中。

【授業の学習内容】

聴覚障害者の言葉である手話を学び、お客様を接客する際に使えるようにする。手話を使い、日常会話ができるようにする。

【到達目標】

職場に聴覚障害者の方が来られた時に、手話で対応できるようになる。また、その他のコミュニケーション方法を使用し、聴覚に障害のないお客様と同じように接客できるようになる。

授業計画・内容

1回目	前期の復習 接客手話の確認
2回目	乗り物に乗って移動する際の会話を考え、手話を学ぶ。道案内や路線についての会話を学習する。
3回目	生活の手話を学ぶ。(相手を誘う、招待する など)
4回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ1。ホテル等で聴覚障害者からの依頼や質問に関する会話を学習する。
5回目	形容詞・副詞の手話を学ぶ2。旅行会社等の会話を学習する。
6回目	施設の手話を学ぶ1。ホテル等、館内施設の紹介や案内の会話を学習する。
7回目	施設の手話を学ぶ2。観光施設での会話を学習する。
8回目	これまでの復習及び数の手話を学ぶ。日常会話を学習する。
9回目	都道府県や地名の手話を学ぶ1。フロントやカウンターでの会話(おすすめの場所等)を学習する。
10回目	都道府県や地名の手話を学ぶ2。ツアーや旅行地での会話(おすすめの場所等)を学習する。
11回目	動詞の手話を学ぶ1。各自就職または就職を希望する分野の会話を考え、その会話を学習する。
12回目	動詞の手話を学ぶ2。今後に向けて聴覚障害者とのコミュニケーション方法を再度確認する。
13回目	手話技能検定対策。
14回目	1回目～13回目までの授業の振り返り
15回目	手話IVの統括

評価基準 まとめとこれからの目標(手話技能検定4級)について

評価方法 **出席評価**50% + **授業態度評価**(聴く、書く、話す、制作する等の取り組み態度)10% + **技術評価**(もしくは試験・レポート等評価)40%とする。
 なお、本授業における技術評価は以下の割合にておこなう。
 ・筆記試験(手話技能検定5級) 50点
 ・実技試験(実技試験30点 授業内実技20点) 50点
 ・上記2点を合計100点とし、40%計算を行う。

受講生への
メッセージ

【使用教科書・教材・参考書】

【使用教科書・教材・参考書】 手話技能検定公式テキスト 5・6・7級 手話技能検定公式テキスト3・4級